

715

452



715
X
452

和十四年五月

支那事變に於ける帝國海軍の行動 (其の二)

(南京攻略後より漢口攻略まで)

續(漢口攻略後より海軍の陸まで)



743

海軍省海軍軍事普及



支那事變に於ける帝國海軍の行動 (三)

(南京攻略後より漢口攻略迄)
續(漢口攻略後より海南島上陸迄)

目次

一、はしがき.....	一
二、海軍作戦の經過概要.....	一
(イ)海上制覇.....	一
(ロ)支那船舶の交通遮断.....	一
(ハ)陸戦隊の奮闘.....	一
(ニ)敵要地の占領.....	一
(ホ)陸軍との協同作戦.....	一
三、各方面に於ける海軍部隊の奮闘.....	三
(イ)青島作戦と海軍陸戦隊の上陸.....	三
(ロ)海南島榆林港の敵陣地を粉碎す.....	三
(ハ)芝罘	
(ニ)太湖附近の敵を撃滅す.....	
(ホ)沿岸交通遮断部隊の北支・南支に於ける活	
(ヘ)長江沿岸通州及び崇明島上陸掩護.....	
(ト)排日の根據厦門を攻略す.....	
(チ)臨	

海線の要衝連雲港を占領す

四、海軍航空部隊の活躍……………二四

(イ)概説―(ロ)海軍機の全支猛爆―(ハ)援支の蘇聯機を屠る―(ニ)海軍機の輝く戦果と正確無比の爆撃―(ホ)漢口空襲、一撃五十一機を撃墜す―(ヘ)徐州攻略戦と海軍機の活躍―(ト)徐州攻略後の殲滅戦―(チ)優渥なる御言葉を賜ふ―(リ)廣東方面の猛爆撃―(ヌ)南昌飛行場に着陸敵機を焼く―(ル)敵空軍根據地南雄を衝き、敵機を殲滅す―(ヲ)長驅昆明を強襲す

五、戦史に輝く揚子江遡江作戦……………五一

(イ)作戦概要―(ロ)揚子江進攻作戦と安慶攻略―(ハ)海軍江上部隊の九江攻略―(ニ)海軍江上部隊相踵いで江岸要地を攻略す―(ホ)水陸併進、武漢三鎮に迫る―(ヘ)武漢三鎮の攻略―(ト)武漢攻略後、岳陽占領―(チ)武漢陥落の意義

六、南支作戦の新展開……………七〇

(イ)廣東攻略の意義―(ロ)廣東攻略と華々しき海陸協同作戦―(ハ)優渥なる御言葉を賜ふ―(ニ)珠江遡江作戦

七、廣東・武漢三鎮攻略後の戦局……………八〇

八、事變に關する内外主要事項……………八三

(イ)中華民國新政權の樹立―(ロ)南京に於ける陸海軍合同慰靈祭―(ハ)帝國政府聲明―(ニ)支那事變一周年に優渥なる勅語を賜ふ―(ホ)米江上艦モノカシー事件―(ヘ)長沙事件―(ト)廣東・武漢三鎮攻略後に於ける帝國政府聲明

九、支那事變海軍作戦經過一覽表……………一〇一

715
452



支那事變に於ける帝國海軍の行動 (二)

(南京攻略後より漢口攻略迄)

一、はしがき

曩に抗日の首都南京を陥れて以來、茲に一年、皇軍の勇戦奮闘により海に、陸に、空に相踵いで赫々たる戦果を擴充し、昨年五月十九日遂に徐州を攻略して、戦局に一大轉機を畫し、次で六月十二日安慶を我が掌中に收め更に地上、江上、空中より轡を並べて、敵軍抗日の中樞漢口に迫り、十月下旬遂に廣東及び武漢三鎮を攻略して、茲に輝かしい戦果を獲得した。かくて我が海軍は既に制海權は云ふに及ばず、制空權をも完全に確保し敵の敗殘兵及び空軍は遠く奥地に姿を消すに至つた。

然るに敗残の蔣政権は、依然長期抗戦を豪語して第三國依存の迷夢より醒めず、徒らに成都・重慶・昆明等を轉々し、所謂抗戦建國に専念してゐるが、我が將兵は固く兜の緒を締め、更に覺悟を新にして聖戦の目的達成に邁進しつゝ、聖戦第三年を迎へたのである。

此の機會に於て、南京攻略後より武漢三鎮攻略に至るまで、我が海軍部隊奮闘の跡を偲び、その戦果を概説したいと思ふ。

二、海軍作戦の經過概要

今次事變勃發以來、我が海軍の執り來つた作戦行動は、極めて複雑多岐に亙り、その主なる事項を要約すれば、

(一) 海上制覇

(二) 陸戦隊の戦闘

(三) 海軍航空部隊の戦闘

(四) 支那船舶の交通遮断

(五) 揚子江及び珠江作戦並に兩水路の啓開

(六) 敵要地の占領

(七) 陸軍との協同作戦

等であつて、陸軍部隊の善戦力闘と相俟つて赫々たる戦果を收めて居るが、これ等に就ては既に詳しく報道された所であるから、茲には單に主要作戦の經過を概記する。

(イ) 海上制覇 即ち制海權の確保といふことは、端的にいへば、所要海面を我が國家の存立安全の爲に利用し、他國から何等の妨害を受けない

と云ふ事であつて、帝國海軍の使命竝に存在の理由も亦、實に茲に存する。さればこそ、帝國海軍は西太平洋に於て、いかなる來寇艦隊をも撃滅し得るだけの精銳な實力を持つてゐなければならぬのである。

今次事變の當初から、全支沿海の制海權は、勿論我が海軍によつて完全に掌握されてゐたので、劣勢な支那艦隊の如きは、我に對して一指をも觸れることを得ず、空しく長江上流、或は廣東港内に奥深く蟄伏中、儂くも我が海軍艦艇の砲撃や海軍機の爆撃に依つて撃滅の悲運に際會するに至つたのである。

事變當初から儼然たる我が艦隊の制海權の確保に依つて、我が陸戰隊竝に陸軍の作戰をいかに有利に導き得たかは、洵に測り知るべからざるものがあつたのである。之は單に其の一例に過ぎないのであるが、われ／＼は

事變を通じて皇軍の陸・海・空に於ける輝かしい戰果の蔭には、常に眼に見えない我が制海權の偉大なる働きが儼然として潜んでゐる事實を認識し、且つ銘記しなければならぬのである。

かりに西太平洋に於ける我が制海權に搖ぎを來たし、支那海方面の海上保全に少しでも脅威を感じずるやうな事があつたとしたならば、陸軍の輸送を始めとし、敵前上陸掩護、海陸協同作戰は果して能く今回の如く成果を挙げ得たであらうか。又我が海陸の航空部隊は、制海の恩澤を離れて、果して今次のやうな戰績を贏ち得たであらうか。更に全支沿岸に互る交通遮斷も我が搖ぎなき制海權の基礎の上に立つてこそ克く其の効果を發揮し得るのである。帝國を繞る現下複雑なる國際情勢を想ふとき、帝國海軍の儼たる存在が、いかなる役割を果しつゝあるかは、夙に我が全國民の了知す

る所であらう。

(ロ) 支那船舶の交通遮断 全支沿岸交通遮断に活躍する我が海軍艦艇は、終始一貫、連日に互り晝夜を分たず、風浪と戦ひつゝ、嚴密なる監視を續行して居るが、今や二千八百五十哩に達する全支沿海の封鎖部隊の状況に就いて、大本營海軍報道部では昭和十二年十二月三十一日次の如く公表した。

我が海軍封鎖部隊に依る支那沿岸の海上交通遮断は愈々嚴重を加へ、今や支那汽船は勿論戎克の往來も殆ど杜絶せり。尙最近第三國船舶の廣東、香港間運航頻繁なると又第三國船舶が支那船に代り沿岸運輸に従事するの傾向あるは注目を要する點ありとす。

本作戦に従事中の我が艦艇は南北、廣範圍に散在し或は氷雪に惱まされ或は風濤と闘ひ、特に南支方面季節風は連日秒速二十餘米に達し、小艦艇に於ては動搖のため炊

事不可能なるを常とし乗員は毎食「ビスケット」を食するの外なく其の辛苦想像に餘あるものあり。

今や交通遮断開始以來既に約一年有半、その成果は漸く顯著となり、支那船舶の海路は全く遮閉されて支那船舶の停船數は數百隻に及び、又對外貿易は頓に激減し、之がため戦時材料は固より、衣服糧食等國民生活必需品並に工業材料の缺乏により物價は著しく騰貴し、輸出の杜絶は農産、畜産物、礦物等の吐口を失ひ、延いて農民の生活を脅威し、海鹽の輸送停止は遂に多數民衆をして窮乏のドン底に追ひ込んだ。

(ハ) 陸戦隊の奮闘 今次事變に於ける我が海軍陸戦隊は、夙に現地に在つて日夜實戰的訓練を積み、實力の滿を持して必勝の信念に燃えてゐた固有の上海特別陸戦隊を中堅とする同地派遣及び艦船派遣のものであつた

が、陸戦隊の奮闘は、獨り上海戦に止らず、其の後青島・芝罘・威海衛・厦門・連雲港等支那沿岸要地の占領を初めとし、東沙島・金門島、その他戦略要點たる諸島嶼を攻略し、一方我が長江遡江部隊の水路啓開と相俟つて隨時江岸各地の攻略に従事し、南京攻略後、徐州大會戦を経て漢口進撃戦開始せらるゝや、昨年六月安慶攻略を始めとし、相踵いで湖口・九江・田家鎮等の諸要地を陥れ、我が陸戦隊は市街戦より江上戦、野戦、山岳戦へと發展し、遂に漢口の咽喉に七首を突きつけ、十月武漢三鎮を攻略するに至つた。

又南支作戦の進展に伴ひ、十月十二日廣東攻略軍のバイアス灣に上陸するや、翌十三日我が陸戦隊は亞鈴灣沿岸に上陸して之を占領し、次て同二十三日には虎門砲臺を占領して軍艦旗を翻へし、二十五日には珠江遡江部隊と協力して蓮花砲臺を攻略した。

この間累次行はれた我が陸軍の敵前上陸に際しては、我が決死の陸戦隊が常に揚陸地點に先行して奮戦力闘、その據點を奪取して陸軍部隊の上陸を援助したことは既に周知の通りである。

(二) 敵要地の占領 帝國海軍は其の艦艇の機動力を利用して、隨時支那海竝に長江沿岸、島嶼等の敵要地に攻撃を加へ、或は陸軍部隊と協同し、或は單獨に陸戦隊を以て、これ等の要地を占領したが、南京攻略後に於ける主なる占領地點は次の通りである。

(註) 南京攻略前の占領要地は、東沙島(一昨年九月三日)、金門島(同十月二十六日)、焦山(同十二月十二日)であつた。

青島 昨年一月十日、陸戦隊の敵前上陸により占領。

芝罘 同二月三日、支那沿岸交通遮断部隊の一部は陸軍部隊の進撃に呼應、陸戦隊を揚陸して之を占領した。

威海衛 同三月七日、我が〇〇艦隊の陸戦隊により占領。

崇明島 同三月十八日、我が江上艦艇は陸軍部隊の敵前上陸を掩護すると共に、陸戦隊を揚陸して之を占領した。

厦門島 同五月十日、我が陸戦隊は厦門島の東岸に上陸、十三日厦門全島の攻略を完了した。

連雲港 同五月二十日、我が海軍部隊は敵前上陸を敢行し、勇戦奮闘の後、二十三日までに連雲港一帯の地域を占領した。

安慶 同六月十三日、我が江上部隊は海陸協同作戦により、漢口の咽喉安慶を攻略した。

南澳島 同六月二十一日、我が陸戦隊は南澳島に上陸、二十三日同島を完全に占領した。

湖口 同七月四日、我が江上部隊は海陸協同作戦により、湖口を占領した。

九江 同七月二十六日、海陸協同作戦により揚子江江岸唯一の要衝九江を占領した。

星子 同八月二十一日、海陸協同して鄱陽湖岸の要衝星子を占領した。

田家鎮 同九月二十九日、海陸協同作戦により田家鎮を占領した。

半壁山 同十月四日、海陸協同して田家鎮の對岸半壁山要塞を占領した。

蕪春 同十月八日、揚子江遡江部隊は江岸蕪春を占領した。

黄石港 同十月十九日、海陸協同江岸の要港黄石港を占領した。

虎門要塞 同十月二十三日、南支珠江遡江部隊の陸戦隊は、亞娘鞋島砲臺下に敵前上陸を決行して虎門要塞の全砲臺を占領した。

(ホ) 陸軍との協同作戦 今次事變に於て、我が海陸軍は完全に一團となり、能く有機的機能を發揮し、凡ての作戦行動は、一として海陸協同の意義を含まないものは無いといつても過言ではなからう。

即ち陸軍輸送船團の護送、敵前上陸掩護、陸上戦闘に對する海軍航空隊、江上艦艇、陸戦隊等の緊密なる協力等が其の主要なものである。

殊に數次の敵前上陸に於て、海軍部隊の犠牲的行動は常に世界戦史に類例なき戦果を収めたのである。

特に一昨年之の杭州灣上陸といひ、昨年之のバイアス灣敵前上陸といひ、いづれも南京及び武漢三鎮の死命を制する一大功績を齎したのであるが、その間輸送、警戒、偵察、泊地進入及び上陸軍の直接援助等に於て拂はれた海軍部隊の苦心は、蓋し想像に餘りあるものがある。

又海軍航空部隊の目覺しい活躍が、戦局の全般に對しては勿論、或は奥地に於ける陸軍の戦闘に、或は彈藥糧食等の空中輸送に協力して多大の寄與をなしつゝあることは、近代戦の立體化として顯著な事實であるが、長

江數千裡の大河が存在して、我が艦艇の活動を可能ならしめつゝある實情が、支那大陸の奥地に於ても、克く海陸協同作戰、即ち海軍艦艇並に陸戦隊と陸軍部隊との協同を可能ならしめてゐる所以であるといふ事が出來よう。

三、各方面に於ける海軍部隊の奮闘

南京攻略以後に於ける海軍作戰の概要は前述の通りであるが、更に支那沿岸交通遮斷部隊並に陸戦隊の敵要地占領等を詳記すれば次の如くである。

(イ) 青島作戰と海軍陸戦隊の上陸

青島は從來我國と最も密接な關係のある所で、在留邦人約二萬、權益約

三億圓を有する地であつたが、帝國は戰禍の同地に波及するを避けんが爲め、多大の犠牲を拂つて居留民の引揚を斷行したのであつて、九月五日に於ける交通遮斷の宣言に於ても、特に青島を遮斷區域より除外する等極力山東の和平維持に努めて來たのであつた。然るに十二月十八日以來、暴戾なる支那軍は我方との約定を破棄して多數邦人經營紡績工場を烏有に歸せしめ、更に遺留財産を掠奪する等暴逆の限りをなし不信行爲を敢てするに至つたので、同二十六日支那方面艦隊司令長官は青島をも交通遮斷區域に加ふる旨宣言し、嚴重なる監視を續けて居たが、作戰上の必要に基き遂に昨年一月十日拂曉、青島の東方山東頭及び浮山所に海軍陸戰隊の敵前上陸を敢行した。我が飛行機は陸戰隊の進撃に呼應して青島上空より傳單を撒布し、武士の情を以て穩便に降伏するよう勸告したところ、敵は我が威武

に懼れて同地の信號所に白旗を掲げたるを以て、我方は之を容れ一兵をも損せずして青島を占領した。かくて入市した我が指揮官は治安維持のため安民に關する緊急布告を發すると共に、陸戰隊は李村水源地及び滄口飛行場を確保し、又我が艦船部隊は、内外兩港を掃海すると共に大港入口に沈めある支那第三艦隊司令謝剛哲麾下の砲艦楚豫・同安・定海の三艦（各三百噸級）及び二千噸級商船六隻の沈船の處理に著手して水路啓開を急いだ。かくて市内は日を追ふて平穩に向ひ、避難民も續々歸還し、皇軍の遺憾なき警備に全く安堵して著々復興への途に就いてゐる。

（口） 海南島榆林港の敵陣地を粉碎す

南支方面海上監視中の海軍部隊は、廣東省に在る支那第一の大島たる海南島最南端の榆林港には、豫て支那戎克の密航するものあるに留意しつゝ、

あつたが、一月十九日午前八時半我が軍艦は同港内に進入して飛行機偵察の結果、港内に戎克の密集中なるを發見し臨檢隊を派遣したるに、我が内火艇及び短艇は同港の陸岸叢林から機銃及び小銃の一斉射撃を受けたので、直ちに之に反撃を加へ、我が軍艦よりは膺懲の巨弾を浴びせて敵の機銃陣地を粉碎、敵兵を潰走せしめた。

(ハ) 芝罘 攻略

支那沿岸交通遮断部隊の一部は、陸軍部隊の進撃に呼應して二月三日早朝、芝罘沖に進航し午前九時半陸戦隊の上陸を決行したが、我が陸戦隊の堂々たる威風に壓せられてか既に附近には敵影なく、一發の砲弾をも放たずして同地一帯を占據し、正午頃には芝罘唯一の護りたる東山・西山兩砲臺をも占領し、砲臺上高く我が軍艦旗を翻へしたのであつた。

かくて陸軍部隊と緊密なる連繫の下に、海關・敵司令部・警察廳その他の重要機關を接收して市内の警備に任じたのであるが、爾後同地は益々皇風に浴して平穩に経過するに至つた。

(ニ) 太湖附近の敵を撃滅す

太湖附近警備中の我が海軍砲艇隊は、三月十五日薄闇迫る五峰山島附近に於て奇怪な大型帆船九隻の航行中なるを發見、直ちに之を追躡した。彼等の距離約五百米に接近するや、突如その帆船より猛烈な火蓋を切つたので、勇猛なる砲艇隊は直ちに之に應戦、夜の帳全く下りた太湖上に凄まじき砲火を交へ、激戦約一時間敵船五隻を撃沈、他の四隻は辛うじて横山島南岸に著し、敵兵は陸上目がけて驚地に遁走した。敵の遺棄死體二百、溺死體無數、又多數の武器彈藥を鹵獲した。

かくて敵の長期抗戦の一手段として囑望してゐた遊撃戦術も我軍の前には物の數ではなく、上述の如く隨所に撃滅せられたのである。

(ホ) 沿岸交通遮断の北支・南支に於ける活動

芝罘に於ける海軍陸戦隊は、五月三十一日匪賊の來襲に對し直ちに反撃翌六月一日全く之を撃攘した。

遮断部隊の一部は、六月三日黄海沖に於て武装せる大型戎克の六隻の攻撃を受けたるも、直ちに反撃を行ひ、航空機支援の下に其の二隻を焼却、一隻を爆破せしめた。

又六月四日海南島北方海面に於ては、武装せる八隻の大型戎克を撃破し、同二十日海南島海口砲臺と交戦之を沈黙せしめた。

(ヘ) 長江沿岸通州及び崇明島上陸掩護

下揚子江一帶は我が江上艦艇の水路啓開竝に沿岸警備に依つて著々治安を恢復するに至つたが、北岸通州附近及び下流の崇明島附近には尙ほ敗殘兵出沒して附近住民を脅かす等の不法行爲頻發したる爲め、斷乎之を掃蕩する目的を以て、我が江上艦艇は園田少將指揮の下に、三月十七日早曉陸軍の大部隊を嚮導して通州附近に到り、海軍航空部隊と共に、陸軍の壯烈なる敵前上陸を掩護し、その進撃に緊密なる協力を與へた。一方崇明島の敵を一掃する爲め、翌十八日黎明を期して陸軍部隊の同島敵前上陸を掩護すると共に、別に海軍陸戦隊を揚陸して共に崇明縣城に肉迫、頑敵を撃破して午前中早くも同縣城を占領し、かくて全島攻略の端緒を開いた。

(ト) 排日の根據廈門を攻略す

廈門島は福建省南部に在り、華僑の出身地として知られ、廈門市は同島

の西南端に位し人口約二十三萬、福建省南半唯一の物資輸出入港にして商況活潑、臺灣とは一衣帶水、兩地間の貿易も亦殷盛を極めて居た。

今次事變勃發後、帝國海軍援護の下に在留内地人の全部及び籍民の内約六千は同地を撤退したが、その後支那側は殘留籍民に對し言語に絶する迫害を加へ、漢奸の罪名で監禁せられたもの新監獄に五百名、第五百十師司令部に七十五名を算し、又既に私刑或は支那兵に虐殺された者百名を超え、他の多數籍民は財産を捨て辛うじて香港等に避難したのであつた。かかる惡質の排日抗日を一掃すべく其の機會を狙つて居た我が海軍部隊は五月十日未明、廈門島の東部海岸に有力なる陸戦隊の敵前上陸を決行した。

我が勇猛な陸戦隊は「トーチカ」・塹壕等の堅壘に據り頑強に抵抗する敵を撃破する一方、我が艦艇の巨砲は白石頭その他の敵砲臺を猛撃して之を

制壓し、航空部隊も亦、銃爆撃を以て直接陸上部隊に協力して漸次同島を席捲した。

翌十一日陸戦隊は敵陣を突破して廈門市に突入、同夕刻には全市街及び敵軍蟠踞の廈門大學を占領、更に息をもつかせず殘敵を包圍攻撃すると共に夜に入りて磐石砲臺・胡里山砲臺を占領し、山地潰走の敗殘兵を掃蕩して十三日廈門全島の攻略を完了した。

本攻略中第三國人及び支那良民に對しては、最善を竭して生命財産の安全確保に努めたのは勿論であるが、支那軍は第三國干涉の端緒を得んが爲め、從來屢々學校・教會等を作戦行動に利用してゐたが、今回も廈門大學に鞏固なる防禦陣地を構築して防戦したるを以て、我が航空部隊は敢然之を爆撃して膺懲の鐵槌を加へたのであつた。

今や厦門一帯は我が軍艦旗の下に一絲亂れず、治安は維持せられ民衆は生業に安んじて居る。

(チ) 隴海線の要衝連雲港を占領す

徐州を攻略した皇軍は息をもつかせず潰走の敵軍を追撃して殲滅を期して居たが、一方我が海軍有力部隊は五月二十日朝、艦艇及び飛行機掩護の下に東連島竝に隴海線の要衝たる連雲港に有力なる陸戦隊の壯烈なる敵前上陸を敢行、堅壘に據つて頑強に抵抗する敵を驅逐、市内に突入して支那側の重要機關を占據し、折しも連日の荒天名残りなく晴れ渡り屋上高く感激の軍艦旗を翻したのであつた。

續いて隨所に殘敵を掃蕩しつゝ、翌二十一日陸戦隊は同港附近一帯を清掃し、敵手に依つて破壊された棧橋その他諸施設の復舊を開始、早くも必要なる棧橋の架設等を終つた。我が陸戦隊の本掃蕩戦による敵の遺棄死體は約百、その他艦艇、航空部隊の砲爆撃によつて敵軍に與へた損害は更に莫大なものがあつた。

更に二十三日孫家山・北固山の中間地區にある敵陣地を撃破し、かくて隴海線の死命を制する要衝たる連雲港一帯は我が海軍部隊によつて確保せられ、徐州攻略戦に相踵ぐ敵敗殘兵の殲滅戦竝に追撃戦に對する我が陸軍の活躍に遺憾なからしめた。

以上は概ね昨年前半期に於ける徐州攻略直後までの概要であるが、海軍航空部隊の活動竝に後半期、即ち漢口攻略戦開始後に於ける江上作戰等は以下記述の通りである。

四、海軍航空部隊の活躍

(イ) 概 説

今次事變に於て苟も皇軍作戰の實施せらるゝ所、大小の戦闘の行はるゝところ、時と處とを問はず、そこには常に我が海軍航空部隊の協力があり、目覺ましき活躍がある。

我が海軍航空部隊は實に今事變の花形である。事變以來我軍が、世界戦史に比類なき海陸協同作戰の眞價を發揮し得たことも亦、海軍航空隊に負ふ所が絶大であつた。長江を樞軸とする遡江作戰に於ても勿論さうであつたが、大陸奥地に於ける純然たる陸軍部隊の戦闘、例へば彼の徐州大會戦の如きに於ても、海軍航空部隊の協力活躍は眞に驚嘆に値するものあり、

こゝにも亦、克く海陸協同作戰の實を挙げ得たのであつた。

而して戦局の發展に伴ひ、我が海軍航空部隊は愈々其の鵬翼を全支の空に擴げ、遠く甘肅省の蘭州を始めとし、四川省の成都、雲南省の昆明等を襲ふて、今や全支の制空權を其の翼下に收むるに至つた。

最近彼の疾風枯葉を捲く廣東攻略戦に際して、海軍航空部隊がいかに目覺しいものであつたかは、十月十二日拂曉皇軍がバイアス灣に奇襲上陸を敢行して以來、十月末日迄の僅か半月餘の期間に於て、活躍せる我が海軍機の延數二千機、投下爆彈數六千九百發、同重量五百六十噸といふ驚くべき統計に依つても、其の奮戦振りを窺知することが出來よう。

而して聖戦一年有半に於ける連綿不斷の航空戦の結果、敵空軍を殲滅し敵艦艇を撃滅し、更に制空と制海の實を舉げて以て皇軍作戰の全般に寄與

せる殊勳は、赫々として永へに青史を飾り、世界航空史上に時代を畫したのである。

尙ほ事變以來、昨年十月末までに於ける海軍航空隊の戦果に就いて、十一月九日大本營海軍報道部では次の如く公表した。

支那全土の制空權獲得を目標とする我が海軍航空隊は昨夏以來、漢口・廣東兩作戰に協同すると共に、幾度か奥地敵航空基地を空襲敵空軍撃滅に努め、十月末日遂に下表の如く敵機損害千四百を突破するに至れり。この間我も亦百十一機の尊き犠牲を拂ひたりと雖も、今や支那全土を悉く我が爆撃圈内に收むるの偉業を完成せり。

又廣東漢口兩作戰に於ても海軍航空隊の協同は我が南支派遣陸軍をして破天荒の急進撃を實施せしめ、徳安西方に於ては我陸軍と對峙せる敵

を急襲して敵屍四萬、山腹を覆ひ谷を埋むる空よりの殲滅戦を展開する等、上陸作戰、遡江作戰、野戦、山岳戦に協力制空威力を存分に發揮し、敵をして廣東武漢の放棄に至らしめたる重要なる原因を作為せり。

既に敵空軍は漢口、孝感、廣東の主要基地を失ひ、南昌潰滅し、前線航空基地衡陽も亦我が連日の空爆に死相を呈し來れり。

今や敵空軍には事變當初連日連夜上海を空襲せる如き積極的意思無く、只管我が空襲を免れんとして梁山、成都、昆明等奥地のみを流遁しつつ勢力保全に汲々たる情況に轉落せり。

然れども敵空軍今尙ほ百數十機を保有し、銳意第三次空軍建設に進まんとしつつあるを以て、我が方亦完全なる敵機撃滅を目標とし更に邁進せんとするものなり。

彼我飛行機損害比較表

月次	擊墜		地上爆破		累計	我損害
	確實	不確實	確實	不確實		
六月末日迄	四九	五九	四九	五九	一〇二四	八
七月末日迄	七	三	六	三	一八二	五
八月末日迄	六	三	六	三	二二	六
九月末日迄	三	〇	三	〇	三	六
十月末日迄	三	一	四	一	四	六
總計	六〇	八五	六九	一〇一	一、四二五	二二

主要航空戰成果

月日	地名	擊墜		地上爆破		計
		確實	稍不確實	確實	稍不確實	
七、四	南昌	三三	〇	九	〇	五四
七、一五	南昌	〇	〇	一五	〇	一五
七、一六	漢口	〇	〇	三	〇	一三
七、一七	南昌	一八	〇	九	〇	二七
七、一八	漢口	〇	〇	一	〇	二
七、一九	漢口	一	〇	三	〇	一九
八、三	漢口	二七	五	七	〇	三九
八、六	漢口	〇	〇	八	〇	一五
八、一八	衡陽	一四	二	九	三	二八
八、三〇	南雄	一七	三	〇	三	二三
九、二八	昆明	七	〇	一四	〇	二一

一〇、	四	梁山	七	〇	九	〇	一六
一〇、	二二	梁山	五	〇	八	〇	一三

三〇

上記の如く事變以來十月末日迄に我が海軍機のみによつて撃墜、爆破した敵機の數だけでも、千四百機以上に達して居るが、十二月三十日迄の統計は概ね次の通りである。

○ 支那飛行機損害

確 實 一、二九三

不 確 實 二一〇

計 一、五〇三

○ 我が損害 一一三

更に、南京攻略後、武漢三鎮攻略までに於ける我が海軍航空部隊の主要

空襲を列記すれば次の如くである。

(口) 海軍機の全支猛爆

蘭州爆撃 一昨年十二月二十一日、蘭州上空に於て敵戦闘機十機と交戦、その六機を撃墜し、更に地上機八機を爆破、格納庫一棟を炎上せしめた。

南昌空襲 同十二月二十二日、大舉して南昌に向つた我が航空部隊は、南昌上空に於て敵戦闘機二十機と交戦、その十七機を撃墜し、地上待機中の敵機約三十機に對し、銃爆撃により十三機を爆破せしめた。

重慶・漢口空襲 昨年二月十八日、長驅重慶を空襲し、兵舎を炎上せしめ飛行場及び附屬施設に多大の損害を與へた。

他の一隊は同日更に漢口を急襲し、地上機五機を炎上せしめ、上空に於て敵二十數機と交戦、更に歸途漢口東方に於て新手の敵十餘機と遭遇、何

れも壯烈なる空中戦闘の後、合計敵の十八機を屠り、凱歌を挙げ歸還した。

南昌飛行場を空襲、敵の三十九機を屠る 二月二十五日、敵の格納庫、工場、兵舎等約十棟を爆破し、又空中戦に依つて三機を撃墜した。更に我が戦闘機隊は我に數倍せる敵戦闘機と稀有の壯烈なる空中戦闘を交へ、敵の三十九機を一舉に屠り、目覺しき戦果を収めて凱歌を挙げた。

(ハ) 援支蘇聯機を屠る

我が海軍航空部隊は、南京攻略後も引續き全支空軍根據地を空襲して敵の心膽を寒からしめ、或は南京方面に來襲せる敵機を反撃する等縦横無盡の活躍をなし、敵が空軍再建の爲め輸入したばかりの蘇聯優秀機の如きも概ね其の大半を屠り、一月二十六日の如き翼を連ねて南京に來襲したる十二機の敵重爆撃機に對し、我が海軍機は直ちに反撃、忽ち其の一機を屠り、

更に逃ぐる敵機を急追して他の二機をも撃墜した。撃墜せられた敵機は殆ど焼失して居たが、之を仔細に檢すれば蘇聯機なること明瞭にして其の搭乗者も蘇聯人なることが判明したのであつた。

(ニ) 海軍機の輝く戦果と正確無比の爆撃

我が海軍航空部隊の勇猛果敢なる攻撃に依つて、敵空軍の大部は既に撃破せられ、僅かに蘇聯その他、第三國の援助の下に其の再建に狂奔して居るが、今や支那空軍は飛行機も、操縦士も列國の寄合世帯の觀を呈するに至つた。偶々二月二十三日虚勢に驅られ、功利に趨つたこれ等の外人操縦士を利用して珍らしくも、臺灣空襲を試み、地上から殆ど眼に見えぬ高所から無暗矢鱈に爆弾を投下して逃走したのであつた。その結果は周知の如く徒らに良民を少しく傷づけたに過ぎなかつたが、例の支那側は恰も多大

の戦果を得たかの如く虚構の逆宣傳をなしたのであつた。我が航空部隊の精銳は一月下旬以來、重慶その他各地を猛襲して、敵に徹底的大鐵槌を下した。

而して援支の蘇聯飛行士が直接空中戦に参加するに至つたのは、一昨年十二月頃かららしいが、蘇聯は其の優秀を世界に誇る自國製E十五型やE十六型飛行機と其の飛行士を以て、全滅に瀕した支那空軍を積極的に援助してゐる。然るに此等蘇聯機が一度我に又向へば、鎧袖一觸忽ち我が精銳の海軍機に撃墜されるのであつた。

而して我が空爆が如何に正確無比であるかは、「日本海軍の空爆は適確に軍事施設を狙ふから民家は安全で、空爆に際しても一般住民は安んじて生業に従事してゐる」との外人記者報道と「日本空軍の勇敢無比、質の優秀

なことは正に世界一である」との外人飛行士の談話等によるも、その片鱗を窺ふことが出来る。



蘇聯機の出現した主なる空中戦の成果 (自二月八日至同二十八日)

月日	場所	爆破	撃墜	我被害
二一八	漢口	中型	「ホーク」型 一	三
二一七	宜昌	四發型 雙發型 小型	E一五型 E一六型	
二一九	襄陽 長沙	E一五型 E一六型 小型	E一五型 E一六型	
二一八	漢口	大型 小型		
		CEE B一六型 型型	計 三〇	

	二一二一							
	宜	吉	衝	吉	麗	南	樟	襄
總計	昌	安	陽	安	水	昌	樹	陽
計	小大型	大型	中大型	中大型	大型	大型	大型	大型
	一一	二	一六一	四二	一	一	一	五一
			「ホーク」四型一				EE一五型 EE一六型 其他計四二	
								七八
								一二九
								五五

(ホ) 漢口空襲、一舉五十一機を撃墜す

我が海軍航空部隊の精銳は、四月二十九日天長の佳節を期し、勇躍敵の策源地たる漢口空襲の壯途に赴いた。我が精銳數十機は恰も我を邀撃せる敵の八十餘機と數十分間に互り壯絶なる大空中戦を演じ、優勢を恃み雌雄を決せんと挑み來つた敵機を次々と屠り、合計五十一機を撃墜して事變以來空前の華々しき戦果を収め、又漢陽兵工廠をも爆撃し、建物三箇所を潰滅して、我が航空部隊の眞價を遺憾なく發揮したのであつた。

(ヘ) 徐州攻略戦と海軍機の活躍

戦局の進展に一大轉機を劃した徐州攻略戦は、五月上旬より隴海線の南北に互る廣大なる地域に於て開始せられた。我が海軍航空部隊は之に呼應して津浦、隴海沿線及び附近一帯の敵の陣地、部隊、軍司令部等に對し果

敢なる攻撃を加ふると同時に、敵兵及び軍需品輸送中の列車、貨車、戎克群、各要地の集積軍需品、倉庫、輸送施設を爆破して敵の兵站線を潰滅する等陸軍部隊の進攻に對し絶大なる寄與をなしたのであつて、本攻略戦に於て海軍航空隊活躍の状況を摘記すれば左の通りである。

五月十三日、棚町少佐の率ゐる七十餘機は見事な編隊を以て、徐州北停車場に輻輳してゐた百數十輛の敵の軍用貨車群、集積軍需品、驛施設及び鐵路に對し數百の巨弾により徹底的爆撃を行ひ、破壊された貨車、軍需品の飛散物凄く、火災を起して猛烈に炎上せるもの數個所、眞に潰滅的損害を與へた。更に他の航空部隊は運河車站を爆撃、軍用貨車群及び驛施設に多大の損害を與へ、翌十四日宿縣城内の敵集團部隊攻撃に向つた一隊は、城内各所の敵部隊に徹底的爆撃を行ひ、市内十數個所より火災を起し甚大の損害を加へ、他の十數機より成る部隊は固鎮附近の三十數箇村落及び多數陣地に對し果敢なる爆撃をなし、敵に多大の損害を與へ、隴海線東部を攻撃せる部隊は敵の軍用貨車、機關車を爆破した。

十五日我が海軍大爆撃部隊は、碭山に於て城内及び停車場の敵大集團部隊を爆撃し、飛行場をも爆破した。徐州の東部に於ては多數の潰走敵兵を猛爆して殲滅的效果を収め、又宿縣、固鎮村落に據る敵の集團部隊及び陣地を反覆爆撃した。他の三十機より成る我が部隊は固鎮城内の敵集團部隊を爆撃して多大の損害を與へた。

十六日我が航空部隊は更に徐州東方山麓陣地に據る敵兵に大爆撃を加へ他の一部隊は崗城（徐州東方）附近の敵密集部隊及び軍馬に大損害を與へた。他の部隊は敵軍隊を満載せる軍用貨車群及び附近敵兵を爆撃、一部は

大廟及び其の他の部落に據る敵兵及び戰車群を爆撃し、他の部隊は蒙城西
部地區の敵集團部隊を、更に他の一隊は大運河方面の敵部隊を猛爆する等
全線各所に於て連續潰滅的損害を與へた。

十七日海軍航空部隊は折柄の惡天候を冒し、徐州東方地區の敵集團部隊
を爆撃し、次で十九日十數機より成る數團の同航空部隊は徐州城内南東部
及び東部城外方面に於て敵集團部隊を攻撃、敵軍崩壞の眞只中に於て、地
上防禦砲火もなく、敵機の寸影をも認めず、悠悠々々猛爆撃を敢行した。

かくて海軍航空部隊精銳の絶大なる協力の下に、我が陸軍未曾有の大包
圍陣は神速果敢、猛攻に次ぐに猛攻を以てし、遂に徐州攻略の歴史的偉業
を完成したのであつた。

(ト) 徐州攻略後の殲滅戰

皇軍の徐州攻略により大混亂を招來し、支離滅裂、徐州一帯より四方へ
潰走せる敵軍に對し隨所に追撃戰が展開されたが、海軍航空部隊も亦、敗
殘兵の殲滅その他戰果の擴大を期して大活躍を演じた。即ち五月二十一日
三十機より成る一隊は駐馬店を空襲、停車場及び附近の集積軍需品を爆破
し、投下せる二百數個の爆弾により約四十輛の貨車を粉碎炎上せしめ、又
集積せられてゐた「ガソリン」庫その他の軍需品は、我が直撃彈の雨に猛
烈な火勢で炎上した。

一方徐州東方地區の敵敗殘集團部隊に對し殲滅的爆撃を加へた。

翌二十二日海軍航空部隊は徐州及び蚌埠附近村落に據る敵敗殘兵及び軍
用戎克群を隨所に爆撃し、又河溜集及び西方地區に於ける敵集團部隊に反
覆爆撃を加へ、何れも甚大の損害を與へた。更に海州地區に於ける敵集團

部隊に對しても致命的爆撃を加へた。

五月二十三日、二十數機を以て駐馬店飛行場を空襲、燃料庫、彈藥庫等を爆破、黒煙は同市街の上空を蔽ひ、他方徐州方面よりの敗殘兵攻撃に向へる航空部隊は、洪澤湖、大運河方面に於て敗殘兵輸送中の戎克を爆沈し渦陽・蒙城・板浦鎮・墟溝の各地及び附近部落に據る敵の集團部隊を反覆爆撃した。

翌二十四日引續き海軍航空部隊の精銳は、雪崩を打つて各都市に流れ込んだ敵の敗走集團部隊に對し、淮陰・淮安・潁州の各地に於て有効なる爆撃をなし、又洪澤湖、五河、泗陽及び附近部落に據る敵兵並に海州西方大沙河鎮に彷徨してゐた約五千の敵に對し、連續數十彈を投じて潰走せしめた。

我が海軍航空部隊の徐州作戰協力の概要は右の通りであるが、其の外連雲港上陸並に蕪湖上流の江上作戰に従事する等華々しき活躍をなし、五月中のみにても北支、中支方面に於て攻撃せる延回数に千八百回、投下爆彈九百餘噸に達してゐる。

(チ) 優渥なる御言葉を賜ふ

畏くも 天皇陛下に於かせられては、五月二十五日午前十一時三十分兩幕僚長宮殿下を召させられ、左の優渥なる御言葉を賜ふた。

今次ノ徐州會戰ニ於テ我軍力迅速ニ優勢ナル敵ヲ撃破シ赫々タル勝利ヲ收メ得タルハ其作戰ノ計劃宜シキヲ得各部隊克ク艱難ニ耐ヘテ勇猛果敢ニ行動シ海軍航空部隊亦適切ニ之ニ協力シタル結果ト認メ深ク満足ニ思フ此旨將兵ニ申傳ヘヨ

(リ) 廣東方面の猛爆撃

我が海軍航空部隊は南支方面に於ては厦門攻略戦に参加したほか、連日連夜敵の航空基地並に運輸機關の攻撃に従事し、屢々粵漢線廣九兩鐵路を杜絶せしめ、破壊せる機關車十五、貨車四百を超え、五月二十八日以降は主として廣東市内外の軍事施設、軍需工場を目標として猛烈なる攻撃を續行した。支那側は之に對し軍事的損害の隱匿に努むると共に、非戦闘員殺傷の誇大宣傳を以て第三國の憐憫を訴へた。

(ヌ) 南昌飛行場に著陸、敵機を焼く

七月十八日松本少佐、南郷大尉の指揮する南昌大空襲部隊は、敵空軍根據地南昌を襲ふた。我が飛行機隊の近迫せるを知つた敵の約十五機は、倉皇として離陸遁逃せんとしたが、南郷大尉指揮の戦闘機〇機は直ちに之を

急追して忽ち其の八機を撃墜した。一方松本少佐指揮の爆撃機〇〇機は、逃げ遅れて南昌飛行場に在つた敵の重爆撃機三機、戦闘機九機を急降下爆撃に引續き、猛烈果敢なる低空飛行に依つて反覆銃撃を加へ其の七機を炎上せしめた。然るに機銃弾既に盡きたるも、未だ炎上せざる敵機若干を認めたるを以て、剛膽極りなき爆撃機〇機は敢然として敵飛行場に著陸、飛行機より躍り出て、茲に世界空前の空軍地上戦を展開し、マツチ等を以て敵機に迫り放火、一機をも残さず炎上せしめた。

この間、敵重爆撃機に装備してあつた機銃弾装二箇を戦利品として分捕り、更に敵格納庫内部飛行場の周圍を悠々隈なく偵察して敵機の壊滅したるを確め、且つ遁走せんとする燃料補給車を追ひ掛け其の二臺を田の中に顛覆せしめたる後、南昌飛行場に不滅の偉功を奏して離陸、全機無事歸還

した。地上の敵は全く膽を奪はれ、唯だ啞然として何等なす所なく徒らに遠距離より我が行動を見守つて居た許りであつた。又渡邊大尉指揮の攻撃機〇機は舊飛行場を攻撃したが、囀機多數を認めたまはか敵機を見ず、飛行場施設に大打撃を與へた後、全機悠々歸還した。

南昌に於ける空前の戦闘に於て、〇〇機指揮官南郷大尉は、敵十五機の遁走せんとするを認むるや、一舉に之を急追、その一撃により敵の一機は忽ち火焰に包まれたが、その際、右の敵機は不軌の運動をなし、恰も第二機の撃墜に向はんとしつゝ、あつた南郷機の左翼と接觸した爲め、南郷大尉の愛機は一瞬にして空中に碎け散り、我が航空界の至寶であつた大尉が、その愛機と共に壯烈なる戦死を遂げたことは、全國民のひとしく痛惜措く能はざる所である。

(ル) 敵空軍根據地南雄を衝き、敵機を殲滅す

八月三十日、我が艦上機は密雲を冒して遠く南雄空軍根據地を襲ひ、敵機を殲滅したが、當時海軍大尉手島秀雄の指揮せし海軍飛行機隊の武勳に對する感狀授與に就て、十月十四日大本營海軍報道部は次の如く公表した。

感 狀 授 與

左記感狀は本日上聞に達せられたり。

感 狀

手島海軍大尉の指揮せし

海軍〇〇飛行機隊

昭和十三年八月三十日、密雲驟雨ヲ突破シテ遠ク南雄敵空軍根據地ヲ衝キ、諸施設ヲ撃破シ、執拗ニ反撃シ來レル敵戦闘機約二十機に對シ

寡勢克ク勇戦力闘、交戦實ニ四十分、遂ニ敵機ヲ殲滅シタルハ武勳顯著ナリ。仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十三年九月六日

支那方面艦隊司令長官 及川古志郎

右海軍〇〇飛行機隊戦闘概要

昭和十三年八月二十九日、敵戦闘機の一部南雄に在りとの報に接し、翌三十日艦上戦闘機六機、艦上爆撃機六機は海軍大尉手島秀雄指揮の下に密雲驟雨を冒して遠く南雄空軍根據地の攻撃に向ひたり。

同隊飛行機隊は巧に天候の障碍を突破して克く南雄上空に達し、艦上爆撃機隊は先づ急降下に依り格納庫群を爆破せり。此の時戦闘機約二十機突如四五〇〇米附近の高度より我飛行機隊に對し急襲し來りたるを以

て、戦闘機隊先づ之を邀撃激烈なる空中戦闘を交へ、艦上爆撃機隊も亦爆撃終了後直ちに之に参加各機奮戦格闘せり。

本戦闘に於て敵は極めて執拗に抵抗し來りたるを以て力闘實に四十分間に及び遂に敵二十機(内不確實四機)を撃墜南雄上空敵機を見ざるに至れり。此の間我方指揮官手島大尉機は戦闘中火を發し敵陣地に突入壯烈なる戦死を遂げたるも爾餘の飛行機は更に不良の天候を突破歸還せり。

本戦闘は悪天候を冒して巧に遠く内陸に進入し、優勢なる敵に對し飽く迄之を急追、遂に所在敵機を殲滅したるものにして其の武勳顯著なり。

(ヲ) 長驅昆明を強襲す

九月二十八日、長驅昆明を強襲して敵機を屠つた〇〇の飛行機隊は、十月一日左の感狀を授與せられた。

感 状

五〇

三原海軍大尉の指揮せし

〇〇海軍航空隊 飛行機隊

昭和十三年九月二十八日長驅克ク敵國西南ノ要衝昆明ヲ強襲シ軍事諸施設ヲ撃破シ飛行場所在ノ敵機十數機ヲ爆破炎上セシメ更ニ反撃シ來レル敵戦闘機ト交戦其ノ過半ヲ撃墜シタルハ武勳顯著ナリ仍テ茲ニ感状ヲ授與ス

昭和十三年十月一日

支那方面艦隊司令長官 及川古志郎

尙ほ昭和十二年六月より同十月に至る海軍航空隊の戦果概要は卷末附表の通りである。

五、戦史に輝く揚子江遡江作戰

(イ) 作戰概要

我が長江遡江部隊は、一昨年十一月中旬その活動を開始したが、十二月南京攻略後も江上艦艇は寸時の休みなく長江上流に向け進撃を續けて敵軍の渡河を斷念せしめ、江岸の敵陣地を逐次潰滅しつゝ、蕪湖に進み、昨年一月には蕪湖上流の荻港を突破して、大通上流附近まで遡江し、次で漢口、南昌等より來襲せる敵爆撃機を物ともせず、絶え間なき進撃を續けてゐたのである。

帝國は六月十一日我が陸海軍の漢口進攻作戰開始を堂々と第三國に通告したが、我が江上作戰部隊は戦機愈々熟するを待つて猛然その威力を發揮

し、翌十二日海軍航空部隊の協力により陸軍進撃部隊に呼應し、濁流を蹴つて安徽省城安慶に殺到、之を占領し、更に十四日安慶上流十數哩の敵要地を奪取した。

かくの如く、江岸の頑敵を掃蕩し、且つ各要所に沈置されたる機雷や沈船その他の障害物を除去し、上空、水面及び陸上の危険を冒しつゝ、眞に血を以て長江水路を啓開すべく、黙々として此の難事業に邁進を続けることは、帝國海軍によつてのみ能くなし得る所であり、世界戦史に未だ其の例を見ない所である。

我が陸海軍部隊は安慶占領後、潜山・馬頭鎮等を攻略し、七月四日には湖口を占領し、長江を樞軸とする武漢三鎮の攻略戦は頓に其の鋭鋒を露はし、茲に急角度の轉回を見るに至つた。

この長江進撃作戦こそは、世界戦史に比類なき海陸協同作戦の眞髓を發揮したものであつて、江・陸・空渾然一體の皇軍が、緊密なる連繫の下に糸亂れず、一路武漢を目指して神速果敢なる進撃を敢行した姿は、世界戦史上一大偉觀たるを失はないものであつた。

我が海軍江上艦艇が晝夜間斷なく、江岸に連なる敵陣地と交戦を續け、無数の敵機雷を掃海しつゝ、眞に血を以て水路を啓開して進めば、その血路を衝いて勇猛鬼神の如き我が陸戦隊が壯烈なる敵前上陸を敢行して江岸の要地を占領する。之に續いて我が忠勇なる陸軍部隊が上陸する。かくて駿足を以て聞ゆる陸軍部隊が頑敵を蹴散らして猛進すれば、溯江部隊が濁流を蹴つて之を追うと云ふ有様で、水陸互に追ひつ追はれつゝの猛進撃を繰返しつゝしたのであつた。此の間我が海軍航空部隊の活躍振りに至つては、

敵機の撃墜撃攘に、江岸敵陣地の粉碎、敵兵の爆撃掃射に、連綿不斷の協力奮戦を続け、終始長江作戰を全面的に援助し、其の速戦即決に寄與せる所絶大なものがあつたのである。

之が武漢三鎮の攻略を目指す我が長江作戰の概要であつて、一昨年十二月南京攻略以來昨年十月武漢三鎮攻略迄十箇月有半に互る本作戦は、晝夜を措かず上記の如き戦闘の連鎖であり、繰返してあつたのである。

即ち六月長江の要衝安慶を占領して以來、陸海軍協同して進撃を續行し、相踵いで江岸要地を陥れて武漢の咽喉に逼り、十月二十五日遂に漢口の一角に突入、翌二十六日遡江部隊は全部漢口前面に進入して感激の軍艦旗を翻へし、茲に歴史的不滅の偉業は完成されたのである。

いま遡江作戰に於ける海軍部隊の戦況を記述すれば次の通りである。

(ロ) 揚子江進攻作戰と安慶攻略

我が江上艦艇は曩に陸海兩軍の補給路を確保し、又蕪湖上流に遡江、敵の軍用戎克多數を拿捕して軍需品多量を鹵獲し、一方江上の各種障碍を除き、兩岸の「トーチカ」その他の陣地に據る敵兵を攻撃しつゝ、一月十日蕪湖上流約四十軒の荻港を突破して六金闘鎮附近の敵前水路啓開を敢行し、更に敵が南京より機雷敷設本部を移轉せしめたる大通附近の遡江を決行する等、黙々として有ゆる困難を克服しつゝ、揚子江作戰に従事して居たが、隴海線方面の決定的勝利と共に揚子江上よりの進撃に一層の心血を注ぎ、六月に入つては大通、洋山磯、太子磯、鐵板洲、新開溝等に於て、江岸の敵陣地、敵大部隊を撃破し、或は航空部隊の協力によつて屢々來襲せる敵機を撃退しつゝ、掃海作業、機雷處分、機雷敷設關係施設破壊等を反覆し、

五月十日には早くも王盤洲附近に進出した。

戦機今や熟して六月十一日支那方面艦隊司令長官は、揚子江進攻戦を列國に通告すると共に、愈々果敢なる江上進撃の火蓋は切られたのであつた。江上艦隊は有力なる陸軍部隊を護衛しつゝ、折柄の悪天候を冒し、滔々たる獨流を蹴つて進攻し、十二日未明安慶東方地區大王廟附近に達し、陸軍部隊の敵前上陸を掩護する一方、先頭の艦艇は更に安慶港域に進撃、同日午後一時三十分遂に同港岸施設の一部を占據、續いて翌十三日同港碼頭に陸戦隊の敵前上陸を敢行、市の内外の敵を撃破しつゝ、陸軍部隊と相呼應して同地一帯を完全に占領し、光輝ある軍艦旗を翻して凱歌を奏したのであつた。

かくて敵の第二首都漢口の重要前衛基地たる安慶は、我が神速果敢なる

揚子江進攻作戦部隊の不眠不休の奮闘により我が掌中に歸したが、爾後同部隊は衝天の意氣を以て前路に横はる幾多の萬難を排除しつゝ、一意作戦目的の達成に邁進した。

(ハ) 海軍江上部隊の九江攻略

六月十三日安慶攻略後、休む暇なく更に遡江準備を整へてゐた海軍遡江部隊は、陸軍〇〇部隊と共に六月二十三日安慶を進發、折からの悪天候を冒し渦巻く激流を克服し、江岸の敵を撃攘しつゝ、遡江を續行、幾度か敵の空襲を受けたるも航空隊の果敢なる掩護の下に、江上無數の機雷を清掃して閉塞線を啓開し、海陸空三位一體の協同作戦により著々と戦果を挙げ、七月四日には江岸の要地湖口を占領し、茲に大別山系及び南昌に通ずる漢口防禦線の要衝は遂に我が掌中に歸するに至つた。

湖口占領以來、更に陣容を整へ着々九江攻略の準備を進めてゐた海軍江上部隊は、七月二十三日黎明愈々海陸協同の進撃を開始し、その一部隊を以て陸軍の鄱陽湖畔上陸を掩護して見事に之を成功せしめ、他部隊を以て二十三、二十四日に互り九江下流兩岸の敵砲兵陣地と激戦を交へて之を制壓し、濁流に出没する機雷原を猛然突破しつゝ、二十四日の夕刻には既に九江を指呼の間に望んだ。

翌二十五日九江に向け勇猛果敢に進撃を續行した揚子江部隊前衛隊は、その先頭第一艦を以て同日午後一時九江前面に神速突入、引續き後續部隊を以て同三時勇躍旗艦〇〇を中心、その全力を擧げて進入し、茲に南京・漢口間に於ける揚子江唯一の要衝たる九江の江面を完全に制壓して敵を攪亂潰走せしめ、以て其の攻略を迅速ならしめた。

此の時既に先頭部隊は九江兩岸の敵陣地より猛射を浴びながら其の上流三哩に躍進して江岸隘路の敵退路を遮斷し、次で特別陸戦隊は九江上流に敵前上陸を敢行し江岸を占領して戦果を擴充した。

かくて二十六日午前八時三十分頃、陸戦隊は舊英吉利租界より西部飛行場一帯を、陸軍は爾餘の市街を完全に占領し、茲に海陸兩軍の直接連絡完成し、九江攻略の偉業は全く成つた。

此の間海軍江上部隊の〇〇掃海隊が、流速大なる濁流中に最も危険に暴露しつゝ、連日決死的努力を以て掃海に従事して多數の機雷を處分し、江上戦に劃期的記録を遺し、又〇〇が巧みに機雷原を突破して湖口に挺身突入、友軍の補給路を完成し、更に〇〇、〇〇、〇〇が九江兩岸敵陣地よりの猛射を冒し躍進して敵の退路を遮斷する等、旺盛なる攻撃精神を遺憾なく發

揮したる顯著なる武勳に對し、江上前衛部隊は及川支那方面艦隊司令長官より七月二十七日左の感狀を授與され、感狀は 上聞に達せられた。

江上前衛部隊に感狀授與(大本營海軍報道部公表
昭和十三年八月十三日)

感 狀

森海軍大佐ノ指揮セシ

揚子江部隊前衛隊

昭和十三年六月九日江攻略作戰開始セラルルヤ、揚子江部隊前衛隊ハ豫テ我が進攻ニ備へ、狹長ナル水路ヲ扼シテ隨所ニ多數ノ機雷ヲ敷設シ、險惡ニ砲壘ヲ増強シテ防守セル敵ノ堅陣ニ對シ敢然進撃、執拗ナル空襲ト猛烈ナル銃砲火ニ曝露シツツ、四旬ニ互リ炎暑ト戦ヒ困苦ニ堪へ濁流中ニ觸雷ノ危険ヲ冒シツツ連日不撓ノ努力ヲ重ネ、〇〇餘個

ノ機雷ヲ處分シテ水路ヲ啓開シ以テ遡江作戰ノ進展ヲ可能ナラシメ、遂ニ七月二十五日、勇躍挺身、九江港域ニ突入シテ江岸ノ頑敵ヲ制壓シ、其ノ攻略ヲ迅速ナラシメタルハ武勳顯著ナリ。
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス。

昭和十三年七月二十七日

支那方面艦隊司令長官 及川古志郎

(二) 海軍江上部隊相踵いて江岸要地を攻略す

鄱陽湖岸の要衝星子占領 江上部隊は八月上旬以來、連日に互り安慶上流前面の敵沿岸清掃のため、敵の残存陣地及び敗殘部隊を砲撃しつゝ、沈船、防材竝に無數の機雷を以て閉塞せる水路の啓開に當り、一路上流に向つて進撃するほか、輸送船隊の護衛及び陸軍部隊の揚陸掩護等に奮闘を續

けてゐたが、我が陸戦隊は八月二十一日午前六時星子南門より城内に進入、敵の抵抗を排除して東門より入城せる陸軍部隊と協力、同七時完全に之を占領した。

同時に我が江上艦艇は星子前面に進出、水路を掃海清掃し、湖岸敵陣地を攻撃制壓して攻略部隊を支援進出せしめた。

馬頭鎮・武穴・田家鎮・半壁山攻略 一路武漢を目指す我が江上艦艇の進撃に對し、敵は江岸隨所の砲壘又は陣地に據り必死の防戦に努めつゝあつたが、殊に馬頭鎮及び武穴に於ては兩岸の堅壘相呼應して執拗に我が遡江を阻止せんとした。曩に九江占領後江岸に敵前上陸を敢行し、江岸に沿うて進軍中の我が陸戦隊は、江上艦艇及び航空部隊掩護の下に陸軍部隊と協力、九月十四日午前十時三十分武穴對岸馬頭鎮を攻略した。

一方遡江艦艇の作戦は急速に進捗し、空・陸相呼應して江岸の敵を制壓しつゝ、機雷原を突破し、水中妨害物を清掃一路進撃を續けた。

十六日早朝武穴下流に敵前上陸を敢行した他の陸戦隊は、江上艦艇並に海軍航空隊と協力し、翌十七日午前十一時十分武穴を占領した。

武穴を攻略した海軍陸戦隊の土師部隊は、數日來武穴北方及び西方山岳地帯の堅固なる陣地に蟠踞せる我に十數倍の敵と對峙し、連日連夜激戦中であつたが、海軍航空隊の適切なる掩護爆撃並に江上艦艇の砲撃により浮足立つた敵を猛襲急追し、遂に九月二十九日午前八時三十分田家鎮要塞の一角、その前衛たる象山砲壘を占領した。

田家鎮の對岸半壁山要塞占領 江北戦線の陸軍部隊と協力して田家鎮を攻略した我が陸戦隊は、水路啓開を強行して進撃を續けた江上艦艇、海軍

航空部隊及び一部陸軍部隊協力の下に、十月四日午前九時十分田家鎮對岸たる半壁山要塞を占領し、城砦高く軍艦旗を翻した。

(ホ) 水陸併進、武漢三鎮に迫る

かくて揚子江遡江作戰は愈々、そのテンポを早め、十月四日半壁山を占領した海軍陸戦隊は、翌五日馬鞍山(半壁山の西方四キロ)の堅壘を猛攻して之を占領し、更に海軍航空部隊と江上艦艇掩護の下に陸軍部隊と協同して、その西北方江岸に沿ふ山岳地帯を追撃し、夕刻涂家灣・馬家灣の線に進出した。

而して陸戦隊は海軍航空部隊及び陸軍部隊と緊密なる連繫の下に猛進を続け、六日夕刻迄に半壁山上流八キロの毛竹林一帯高地を占領した。

一方江上艦艇は陸戦隊の毛竹林堡壘占領に呼應して遡江、我が江上作戰は著しく進展し、十月八日蕪春を占領するや、息をもつかず進撃を續行、

江岸よりの猛射を冒して勇猛果敢なる敵前掃海作業を行ひ、同夕刻までに蕪春上流蕪春水道の水路啓開を完了した。遡江部隊この日の目覺しき進撃振りは、實に十五哩といふ驚異的戰果を記録したのであつた。

而して同日蕪春市内の掃蕩を行ひ、市の内外を完全に確保した陸戦隊は、十日江南岸の要衝火山を占領した。

かくて我が軍艦旗は、刻一刻長江を遡つて武漢三鎮に迫りつゝあつたが、我が南支渡洋進攻部隊が突如バイアス灣に奇襲上陸を決行した同じ日の十月十二日の未明、長江に在つては、我が陸戦隊が蕪春の上流對岸に敵前上陸を敢行し、十五日石灰窰(せいかいやう)の關門たる西塞山を猛攻、斷崖絶壁を攀ぢ上りて同日午前八時三十分山頂を占據し、翌十六日陸軍部隊と協力して石灰窰を占領し、十七日を以て同市の掃蕩を完了した。

次で十九日午後四時十分、江岸の要港黄石港（漢口迄水路七二哩直距離二〇里）は完全に我が陸戦隊の手中に歸したのである。

而して二十一日江上艦艇は黃州前面を突破して其の上流に進出し陸戦隊は翌二十二日早朝、陸軍部隊と協力して鄂城下流江岸に敵前上陸を決行し、正午その先頭は鄂城に突入し之を占領した。

この時江上艦艇の最前線は團風水道を突破して漢口の咽喉を扼する地點に達し、翌二十三日夕刻には武漢三鎮を距る僅か十一里の地點に肉迫した。次で二十四日には白澗山青山砲臺並に江岸附近一帯から最後の抵抗を試みる敵の重砲、野砲の十字火を冒して江上江岸を制覇しつゝ、第一線閉塞線を啓開して葛店鎮前面に進撃した。

（へ） 武漢三鎮の攻略

かくて南京陥落後まだ朞年ならずして武漢三鎮最後の日は遂に來た。

即ち十月二十五日午後四時三十分、我軍は陸海軍協同して漢口の一角に進入したのである。

翌二十六日午後五時、海軍遡江部隊は遂に全部相踵いて漢口前面に進入した。同六時全艦艇の將兵は一齊に東方に向ひ、皇居を遙拜し、近藤司令官の發聲の下に、天地も崩れよとばかり、天皇陛下萬歳を三唱したのである。

尙ほ一部遡江部隊は上流に向け進撃を開始し、又海軍陸戦隊は直ちに燦たる軍艦旗を押し立てて、歩武堂々漢口に上陸し、夕刻迄に各擔任區域の警備に就き、二十七日には陸海軍協力して殘敵を掃蕩し、茲に武漢三鎮の攻略を完了した。

上記の如く武漢三鎮は、長江を樞軸とする陸海軍の緊密なる協同作戰を以て攻略し、茲に歴史的偉業を完成したのであるが、畏くも 大元帥陛下には十月二十八日、參謀總長宮殿下、竝に軍令部總長代理同次長を宮中に召させられ、武漢攻略の戦果に對し、左の如き優渥なる御言葉を賜ふた。(大本營陸海軍部公表)

御 言 葉

我陸海軍諸部隊力緊密適切に協力シ長途幾多ノ困難ヲ克服シ遂ニ衆敵ヲ擊摧シテ武漢攻略ノ目的ヲ達成スルニ至レルハ深く満足ニ思フ此旨將兵ニ申傳ヘヨ

(ト) 武漢攻略後、岳陽占領

武漢三鎮攻略以後、我が遡江部隊は前記の如く尙も上流へ進撃を續け、

十一月七日機雷原を強行突破して其の先頭は漢口を距る九十浬の赤壁下流に到達し、同十三日には其の先頭部隊は雷鼓山機雷堰を突破して、遂に岳陽(岳州)に突入、これを占領し、漢口・岳州間百三十浬の水路啓開を完了した。而して十五、十六日引續き戦果を擴大中、敵砲艦「江貞」(五五〇噸)、「民生」の二艦を鹵獲した。

(チ) 武漢陷落の意義

支那大陸の大動脈たる長江を樞軸として行はれた武漢三鎮攻略の偉業は、江・陸・空渾然一體の皇軍作戰により完成せられたが、之より先き十月二十一日南支抗日の據點たる廣東の陷落が、武漢攻略戦に及ぼした影響は實に絶大なるものがあつた。

惟ふに、長江の要衝であり、京漢・粵漢兩線の據點である武漢の陷落

は、敵に對し軍事的には言ふに及ばず、政治的、經濟的にも一大打撃を與へ、今や既に蔣政權をして一地方政權に轉落せしめ、その率ゐる抗日軍が匪賊化するに至るは當然の歸結と言はねばならぬ。

かくて武漢攻略を目標とした長江大作戰の輝かしい戰果は、今事變に「一面戰鬪、一面建設」の新段階を畫するに至つたのである。

六、南支作戰の新展開

(イ) 廣東攻略の意義

抗日支那は事變勃發五箇月にして其の首都南京を奪はれ、其の他國內主要の都市、海港を始めとし、驚くべき廣汎なる國土を喪ひ、其の政治、經濟、軍略の中心たる武漢三鎮の陥落も單なる時日の問題と化して居たのに

も拘らず、尙ほ且つ蔣政權が空虚なる聲を張りあげて長期抗戰を呼號し來つた所以のものは、支那が普通の國家とは特異の存在であることを裏書するものであると同時に、今次事變に於ける戰爭の對手が單なる支那國民政府に非ずして、その背後に英・佛・ソ聯等援蔣國家群が控へてゐる事實を物語るものである。愚かなる支那は東亞永遠の平和を得んとする日本の行動を阻止し却てこれ等國家群の傀儡となつて、此等に植民地化されることを意に介せず、自國民衆の生命財産を犠牲に供し、その國土を荒廢せしめつゝ、これ等國家群より得たる砲彈を皇軍に向つて撃ち込んでゐるのである。之が今事變のあるが儘の真相である。

自國に軍需工業能力の皆無なる支那が世界の一等國日本を對手に抗戰を繼續せんが爲には、武器彈藥その他一切の軍需品を援蔣第三國の供給に仰

がなければならぬことは必然の事である。換言すれば、この上蔣政權をして抗日戦を繼續せしむるか、終熄せしむるかの鍵は、一に援蔣第三國の手に握られてゐるやうなものである。

かくて事變當初より、概ね次のやうな経路に依つて支那には抗日戦の榮養が補給せられつゝあつたのである。

即ち「ソ」聯の受持つ所謂西北「ルート」とは、甘肅省の蘭州方面から隴海線・京漢線を経由するもの、西南「ルート」とは、英國により香港、廣東より廣九・粵漢兩鐵路その他自動車路等を利用するもの、佛領印度支那の海防から河内を経て、河龍鐵道・濱越線その他自動車路等により廣西・雲南の奥地を経由するもの、葡租借地澳門より香港・廣東を経由するもの、英領ビルマより雲南省に通ずるもの等多種多様であるが、抗日の參

謀本部たる香港經由の物資は、援蔣第三國から供給される全物資の八割にも及んでゐたのである。

帝國海軍は夙に支那沿岸二千八百五十浬に亙り、所謂平時封鎖を實施し、一方我が海軍航空部隊は不眠不休の活躍を續けて、前記抗日補給路の爆破遮斷に努めて來たのであるが、援蔣第三國は、我方が支那船舶のみに對して行ふ交通遮斷、即ち平時封鎖の缺陷につけ込んで、毫も對日非友好的態度を改めようとしなないのみか、益々抗日支那に武器彈藥、軍需品等を供給して、却て支那に長期抗戦を使喚し、東洋の平和を攪亂しつゝある實情である。

かくて皇軍に依つて隴海・京漢の兩線が遮斷されて、「ソ」聯よりする西北「ルート」が其の機能を喪失するに至るや、殘された西南「ルート」の

遮断は皇軍作戰上最早や一刻の猶豫を許さざる焦眉の急務となつたのである。

こゝに於て待望の我が南支作戰は展開せられ、皇軍の精銳が突然バイアス灣頭に現はれてより、僅か旬日にして南支抗日の一大據點たる廣東を攻略するに至つたのである。

これ我が全國民の斷乎たる舉國的決意の表明に外ならないのであるが、思へば皇軍をして遙けくも南支の涯にまで其の威武を輝かさしめ、廣東城頭高々と日章旗を翻すに至らしめたものは、實に援蔣第三國の對日非友好的態度が齎した必然の結果であつた。

(ロ) 廣東攻略と華々しき海陸協同作戰

昨年十月十二日拂曉、鹽澤幸一中將麾下の我が艦隊護衛の下に、精銳な

る我が陸軍部隊を満載せる百數十隻の輸送船團は、突如曉の靄を衝いて波靜かなるバイアス灣頭に現はれ、我が艦隊は先づ上陸點附近の海上と空中を完全に制壓しつゝ、陸軍部隊の奇襲上陸を掩護し、茲に大規模なる歴史的渡洋進攻作戰に成功の第一歩を踏出したのであつた。

翌十三日我が陸戦隊は亞鈴灣(バイアス灣の西部)北岸及び排牙山砲台(亞鈴灣南岸)に上陸、敵を掃蕩して之を占領した。

爾後十月十八日頃まで南支護衛艦隊は引續き陸軍部隊の揚陸を援助すると共に、泊地の警戒に任じ、亞鈴灣その他の掃海作業を續行して多數の機雷を處分した。

かくて十月二十一日に至り、陸軍の作戰は驚異的進展を示し、遂に同日午後三時三十分その快速戦車隊は廣東に入城、同夜我軍は完全に廣東市を

占領したのである。

この間我が南支海軍航空部隊が終始その全力を舉げて陸軍作戦に協力し、或は敵の軍隊及び軍事施設を爆撃し、或は廣九、粵漢兩鐵路、貨車群、列車群等を徹底的に爆破粉碎するなど、廣東攻略戦に全面的協力をなし、速戦即決に絶大なる貢献をした事は、本作戦の偉大なる戦果と共に、永く史上に特筆大書さるべきである。

大元帥陛下には十月二十四日、參謀總長宮殿下、竝に軍令部總長代理同次長を宮中に召させられ、左の如き優渥なる御言葉を賜ふた。(大本營陸海軍部公表)

御 言 葉

今次ノ南支作戦ニ方リ陸海軍諸部隊力緊密ナル協同ノ下ニ周到ナル準備ト果敢ナル行動トヲ以テ速ニ廣東一帯ヲ攻略セルハ戦局ニ寄與スル

トコロ大ナルモノト認メ深く満足ニ思フ此旨將兵ニ申傳ヘヨ

(ハ) 珠江遡江作戦

廣東攻略後も南支方面に於ける抗日策謀據點の覆滅、抗日主要補給路の遮断は、引續き陸海軍の緊密なる協力の下に實施され、愈々戦果を擴大した。海軍艦艇は廣東攻略(十月三十一日)の翌二十二日、更に陸軍輸送船團を護衛して珠江江口に進入した。

我が陸軍部隊は、海軍艦艇竝に海軍航空部隊掩護の下に、大角頭島に敵前上陸を敢行し、島内の敵を掃蕩して虎門要塞の對岸に進出した。同時に海軍艦艇及び海軍航空隊は、虎門・川鼻角方面の敵砲臺に對し猛撃を加へ、二十三日海軍陸戦隊は亞娘鞋島砲臺下に壯烈なる敵前上陸を決行し、午後五時敵が難攻不落を誇つた虎門要塞の全砲臺を占領して燦たる軍艦旗

を翻した。

引續き海軍艦艇は、同日珠江江口各地の機雷原掃海を始め、沿岸の敵を制壓しつゝ、陸軍舟艇を嚮導して珠江を遡り、進撃を開始した。即ち茲に新たに珠江遡江作戦が展開されたのである。

遡江部隊は、機雷原を掃海して水路を啓開しつゝ、翌二十四日夕刻には虎門・廣東の概ね中央なる海心沙に進出した。

我が陸戦隊は二十五日海軍機掩護の下に、珠江遡江部隊に協力して蓮花砲臺を攻略し、續いて芝塘獨に據る敵兵約一箇中隊と激戦、これを占領した。

かくて遡江部隊は十月二十六日には、江岸の敵を制壓し、機雷群を排除し、機雷衛所を占領しつゝ、廣東の西方三水に進撃した。

又潭洲水道を遡江した一部の艦艇も、前日（二十五日）早くも三水に到着、二十九日遂に珠江四十五哩を突破して廣東前面に進入し、我が陸軍部隊の歡呼裡に感激の軍艦旗を江上に翻したのであつた。皇軍バイアス灣上陸以來僅に十八日目である。

この間我が遡江部隊の前面には無数の機雷が在り、英國旗を掲揚せる敵魚雷艇の出沒するあり、また所謂珠江デルタ地帯には匪賊化せる敗殘兵が出沒し、遡江艦艇、陸戦隊、海軍航空隊、陸軍部隊それらの多端なる任務を遂行しつゝも、一絲亂れざる統制の下に、萬難を排して見事な海陸協同作戦が續行されたのである。

爾後海軍部隊は殘敵の討伐に當ると共に、全作戦流域に互り、水路啓開作業に努力し、多數の機雷を處分しつゝあつたが、十一月二十四日、航空

部隊、陸戦隊等との緊密なる協力の下に、二虎島（ビル・パッセーヂ）方面江岸の掃蕩を行つた。

七、廣東・武漢三鎮攻略後の戦局

南京攻略後に於ける皇軍作戦は、武漢三鎮の攻略戦に主力が注がれ、而も揚子江が其の樞軸として主なる進撃路となり、兵站線となつた爲め、帝國海軍が能く大陸奥地の戦闘にも協力し、世界戦史に比類なき海陸協同作戦の驚異的戦果を収め得たのである。

かくて我が軍の確保せる制海権は、やがて揚子江の大河を通じて大陸奥地に延長され、こゝに江口より岳州に至る長江七百數十哩の制江権を獲得することとなり、支那大陸の制空権と相俟つて、皇軍作戦の全般に互り偉

大たる貢献をなし得たのである。

凡そ近代戦に於ける武力戦の効果は、海・陸・空の協同作戦を完全に實施し得る側に於て最も大であるべきは云ふまでもない。

事變勃發後、早くも其の海軍と空軍を殆ど撃滅された支那軍が、所詮皇軍に敵し得ざるは蓋し自明の理であるといへよう。

漢口攻略を前に、彼の南支に對する我が渡洋進攻作戦が鮮やかに實施され、疾風枯葉を捲くが如く、僅か旬日にして廣東を攻略するに至つたことも、畢竟帝國海軍の制海、制空の賜であつたと云ひ得るのである。

今や事變は更に新たなる段階に入り、吾等は聖戰一年有半を回顧しつゝ、東亞新秩序建設の春を迎へようとしてゐる。さり乍ら皇軍は蔣政權竝に抗日軍の潰滅を見るまでは、斷じて鉾を收むるものではない。

かくて我が日本國民は、皇軍の翼下に振ひ立つて、東亞新秩序建設の斧を揮ひ、我が國民に課せられた大使命の達成に向つて邁進しなければならぬ。

熟く我が日本を繞る現下の複雑なる國際情勢を観察すれば、事變の前途尙ほ樂觀を容さざるものあるは勿論、東亞新秩序建設の途上には幾多の難關に逢著すきべことを覺悟しなければならぬ。

この秋に當り、われ々の國軍の充實強化が、建設工作と絶對不可分の關係にあり、殊に西太平洋の制海權確保が聖戰終局の目的たる東亞新秩序建設の基本條件たることを認識し、いやが上にも帝國海軍の自主的軍備を整備充實することを怠つてはならないのである。

八、事變に關する内外主要事項

支那事變以來、我が占領地域に於ける新政權の擡頭、その他帝國政府の對支問題に關する聲明等は左の通りである。

(イ) 中華民國新政權の樹立

北支には久しく新政權の樹立が渴望せられ、一昨年十一月二十二日、張家口に蒙疆聯合委員會の設置を初めとし、翌十二月五日浦東には上海大道市政府の成立を見るに至つたが、皇軍の南京攻略を契機として同十四日、中華民國臨時政府は支那五億民族の輝かしい大使命を擔つて華々しく北京居仁堂に於て結成の式典を舉げた。同政府は直ちに中外に宣言を發表して茲に新興支那建設の歴史的な第一歩を力強く踏み出したのである。

次で昨年一月三十日、冀東防共自治政府、中華民國臨時政府に合流し、更に三月二十八日南京には中華民國維新政府成立し、九月二十二日には中華民國政府聯合委員會創立式典を舉行した。

かくて支那新政權は武漢三鎮陥落により、蔣政權の地方政權と化するに伴ひ、帝國の東亞新秩序の建設著手と相俟つて、愈々發展の途を辿りつゝある。

(ロ) 南京に於ける陸海軍合同慰靈祭

東亞の安定と發展の爲め、崇高なる礎石となつて幾多赫々たる偉功を樹てつゝ、江南の華と散つた忠烈將士に對する陸海合同慰靈祭は、一昨年十二月十八日南京故宮飛行場に於ていとも嚴かに舉行された。參加陸海軍部隊は肅然として整列し、「國の鎮め」の喇叭の音莊重に響き渡るや、嚴肅な玉

串奉奠は執行され悲しくも盛大な祭典を終了したのであつた。

(ハ) 帝國政府聲明(昭和十三年一月十六日發表)

帝國政府は南京攻略後、尙ほ支那國民政府の反省に最後の機會を與ふるため今日に及べり。然るに國民政府は帝國の眞意を解せず、漫りに抗戰を策し、内民人塗炭の苦みを察せず、外東亞全局の和平を顧みる所なし。仍て帝國政府は爾後國民政府を對手とせず、帝國と眞に提携するに足る新興支那政權の成立發展を期待し、是と兩國國交を調整して更生新支那の建設に協力せんとす。元より帝國が支那の領土及主權並に在支列國の權益を尊重するの方針には毫もかはる所なし。

今や東亞和平に對する帝國の責任愈々重し。

政府は國民が此の重大なる任務遂行のため一層の發奮を冀望して止まず。

(二) 支那事變一周年に際し優渥なる勅語を賜ふ

畏くも 天皇陛下には、七月七日支那事變勃發一周年に當り、近衛内閣總理大臣を宮中に召され、優渥なる 勅語を下賜あらせられた。近衛總理大臣は 聖慮の宏遠に恐懼感激し 聖旨を汎く國民に傳達するため、同日官報號外を以て内閣告諭を發布した。

大元帥陛下には、引續き同日板垣陸軍大臣、米内海軍大臣を宮中に召され、陸海軍人に對し優渥なる 勅語を下し賜ふた。兩大臣は恭しく奉答文を捧呈して退下、遠く前線の將兵にも此の有難き大御心の程を傳達した。

勅語

今次事變ノ勃發以來茲ニ一年朕ガ勇武ナル將兵果敢力闘戰局其ノ歩ヲ進メ朕ガ忠良ナル臣民協心戮力銃後其ノ備ヲ固クセルハ朕ノ深ク嘉尙

スル所ナリ

惟フニ今ニシテ積年ノ禍根ヲ斷ツニ非ズムバ東亞ノ安定永久ニ得テ望ムベカラズ日支ノ提攜ヲ堅クシ以テ共榮ノ實ヲ舉グルハ是レ洵ニ世界平和ノ確立ニ寄與スル所以ナリ
官民愈々其ノ本分ヲ盡シ艱難ヲ排シ困苦ニ堪ヘ益々國家ノ總力ヲ舉ゲテ此ノ世局ニ處シ速ニ所期ノ目的ヲ達成セムコトヲ期セヨ

内閣告諭

本日支那事變勃發一週年ニ當リ 聖慮宏遠圖ラズモ優渥ナル 勅語ヲ拜ス洵ニ恐懼感激ノ至ニ堪ヘザルナリ

恭シク惟フニ抗日容共政權ノ潰滅ヲ圖リテ日支ノ提攜ヲ堅クスルハ即チ東亞ノ安定ヲ確保シテ世界ノ平和ニ寄與スル所以ノ道ナリ

事變ノ前途ハ尙遼遠ナリ此ノ時ニ當リ朝野一體堅忍持久ノ態勢ヲ整ヘ凡百ノ施策ハ國家ノ總力ヲ舉ゲテ事變ノ目的ヲ達成スルニ集中シ盡忠報國ノ一念以テ萬難ヲ排シ 聖慮ニ應ヘ奉ラムコトヲ期セザルベカラズ是レ本大臣ノ切ニ全國民ニ望ム所ナリ

昭和十三年七月七日

內閣總理大臣公爵 近衛 文 麿

勅 語

朕カ親愛スル陸海軍人ニ告ク

不幸客歲隣邦ト釁端ヲ啓クヤ朕カ陸海ノ將兵ハ內籌畫經理ニ勤メ外攻戰防備ニ勞シ克ク威武ヲ中外ニ宣揚シ以テ朕カ信倚ニ對ヘタリ朕ハ汝等ノ忠誠勇武ヲ嘉シ切ニ鋒鏑ニ斃レ疫癘ニ死シ或ハ癘痼ト爲レルヲ悼

ム惟フニ時局ノ前途ハ尙遼遠ニシテ出師ノ目的ヲ達センカ爲汝等ノ努力ニ俟ツモノ寔ニ多シ汝等軍人其レ克ク朕カ意ヲ體シ宇内ノ大勢ト時局ノ本質トヲ察シ愈々自彊淬礪以テ朕カ股肱タルノ本分ヲ全ウセンコトヲ期セヨ

陸海軍奉答文

優渥ナル勅語ヲ賜ハリ臣等感激ニ堪ヘス謹テ 聖旨ヲ奉體シ戮力協心陸海一致事變ノ解決ニ渾身ノ努力ヲ致シ以テ 聖慮ヲ安ンシ奉ランコトヲ期ス

昭和十三年七月七日

海軍大臣 米 内 光 政

陸軍大臣 板垣征四郎

(ホ) 米江上艦モノカシー事件

昨年八月二十七日九江在泊中の米艦モノカシー事件の真相に關し、同九月三日大本營海軍報道部長は次の談話を發表して香港電報の事實無根なることを指摘した。

香港發外電は八月二十七日、九江在泊中の米艦モノカシー附近揚子江上に於て、我掃海隊が機雷の爆破處分を行へるを報じ、且我方が故意に米艦に危害を加へんとするが如き印象を與ふる筆致を使用せしが、本件の真相左の如し。

英艦コックチエイフアーは九江棧橋に、米艦モノカシーは其の上流二百米に碇泊しありしが、我が海軍掃海隊は英艦の下流五百米附近に約二十個の機雷群浮出せるを發見、之を掃海爆破せんと企圖し、先づ海軍〇

〇部隊指揮官は副官を英米兩艦に派遣し、掃海作業並に浮上機雷群の爆破處分に伴ふ萬一の危険を慮り、英米兩艦に我が掃海實施の間一時上流一哩に轉錨せられ度き旨申入れたる所、英艦長は既に自力を以て周圍三百米圏内を掃海し、且つ二百米以上離隔せば機雷爆破に際しても危険なしとし、米艦長亦前記浮出機雷群より七百米離隔しあるを以て危険なしとし、何れも轉錨の要を認めざる旨回答せり。之に對し我方副官は英米兩艦の轉錨を強ひて要求するものには非ざるも、貴方に於て危険と認むるに於ては上流一哩に轉錨され度き旨希望して會談を終れり。本交渉は極めて友好的に行はれたるものにして右事實は英・米海軍も充分承知し居るものなり。

而して右交渉後、我掃海隊は英米兩艦の上流より下流に向け掃海を開

始せし處、英米砲艦の外方約二百米附近（英艦が既に掃海せし水面）に於て新たに機雷一個を發見拘束せるも、英米艦との距離近きを顧慮し其の爆破處分を見合せ、前記二十個の浮上機雷群の掃海並に爆破處分を續行中、英艦は自ら作業員を派して右新發見機雷一個を爆破せるものなり。

情況右の如くにして現地に於ては日英米三國海軍の間に何等の不愉快なる事件無きに拘らず、冒頭述べたる如き悪意ある報道流布せられた事は其の出所が香港電報なるに鑑み、我方と第三國との關係を傷けんとして作爲せる宣傳なること明白にして、外國通信社が不知の間に支那側宣傳に利用されたる例證なりと認む。

（へ）長沙事件

昨年十月二十四日、長沙在泊中の英國砲艦サンドパイパー損害事件に關

する真相に就て、同二十八日大本營海軍報道部は次の如く公表した。

十月二十四日發生せる長沙事件に關する調査の結果左の如し。

武漢戦線の敵は全面的潰亂に陥り陸路水路に依り續々敗走中との報に接したる海軍航空隊は、十月二十四日早朝之が追撃に向ひたる處、午前九時頃（地方時）爆撃機六機より成る飛行機隊は、長沙市陸州東方江上に相互に南北約六百米を隔てて二團の戎克大群の存在するを發見せるが、從來同方面に於ては右の如き多數戎克を認めたることなかりしを以て、飛行機隊指揮官は是等は當然敵軍使用中のものと判断し之が攻撃を決意せり。然るに南方の戎克群近傍には英國旗らしき標識を附せる商船を認めたるを以て、我が飛行機隊は右商船に危害を及ぼすを慮り、北方大集團のみを攻撃することとし、爆撃針路に入らんとせる際、偶、附近

に小型汽船三隻（形體略ぼ大型戎克と同様）を認めたるが、是等小型汽船には何等第三國船らしき標識を認めざりしも、慎重を期して更に之を避け、右岸寄りの戎克群のみを爆撃せり。彈著は良好にして克く目標を覆ふを見たり。

爾後、英國支那艦隊より同時刻長沙に在りし英國砲艦サンドパイパー（排水量約百八十五噸）は日本軍飛行機の爆撃目標となり、上部構造物に若干の損害ありし旨我方に通告し來れるが、恐らく右戎克群を目標とせる爆弾破片が偶、同艦に跳飛せるものと推定せらる。

（ト） 廣東・武漢三鎮攻略後に於ける帝國政府聲明

十一月三日、帝國政府は左の聲明を發表して、帝國不動の方針と決意とを中外に闡明した。

政 府 聲 明

今や 陛下の御稜威に依り帝國陸海軍は、克く廣東・武漢三鎮を攻略して、支那の要域を戡定したり。國民政府は既に地方の一政權に過ぎず。然れども、尙ほ同政府にして抗日容共政策を固執する限り、これが潰滅を見るまで、帝國は斷じて矛を收むることなし。

帝國の冀求する所は、東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設に在り、今次征戰究極の目的亦此に存す。

この新秩序の建設は日滿支三國相携へ、政治、經濟、文化等各般に互り互助連環の關係を樹立するを以て根幹とし、東亞に於ける國際正義の確立、共同防共の達成、新文化の創造、經濟結合の實現を期するにあり、是れ實に東亞を安定し、世界の進運に寄與する所以なり。

帝國が支那に望む所は、この東亞新秩序建設の任務を分擔せんことに在り。帝國は支那國民が能く我が眞意を理解し、以て帝國の協力に應へむことを期す。固より國民政府と雖も從來の指導政策を一擲し、その人的構成を改替して更生の實を挙げ、新秩序の建設に來り參ずるに於ては敢て之を拒否するものにあらず。

帝國は列國も亦帝國の意圖を正確に認識し、東亞の新情勢に適應すべきを信じて疑はず、就中、盟朋諸國從來の厚誼に對しては深くこれを多とするものなり。

惟ふに東亞に於ける新秩序の建設は、我が肇國の精神に淵源し、これを完成するは、現代日本國民に課せられたる光榮ある責務なり。帝國は必要なる國內諸般の改新を斷行して、愈々國家總力の擴充を圖り萬難を

排して斯業の達成に邁進せざるべからず。

茲に政府は帝國不動の方針と決意とを聲明す。

(附表)

支那事變海軍作戰經過一覽表

(自昭和十二年十二月十八日
至昭和十三年十月三十一日)

南京攻略後より
漢口攻略まで)

年月日	海軍關係主要事項	其の他の關係	海軍機主要空襲箇所	敵機擊破數
昭和二年 一、一八	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	青島に暴動勃發す		
一、一九	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		梧州飛行場	
一、二〇	航空部隊は中支の軍事輸送施設を爆撃す	涂縣占領	粵漢線、廣九線、新寧線、九江飛行場	
一、二一	航空部隊は中支の軍事輸送施設を爆撃し長驅蘭州を攻撃す		蘭州、廣九線、新寧線	十四機
一、二二	航空部隊は南・北支の軍事施設を爆撃す	天長占據	南昌、周家口飛行場	三十機
一、二三	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	陸軍大黃河渡河を決行す	廣九線、廣三線、粵漢線	
一、二四	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す 大本營海軍部はパネー號事件の経過を發表す	パネー號事件に關し帝國は正式に回答を發す	廣九線	
一、二五	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	杭州入城	諸暨裨頭、襄陽の各飛行場、粵漢線海州	七機

一、二二	航空部隊は中・北支の軍事輸送施設を爆撃す	青島港の掃海作業成る		粵漢線、南昌飛行場	
一、二三	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す			粵漢線	
一、二四	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す	高密占領		粵漢線	
一、二五	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す			南昌、孝感の各飛行場	
一、二六	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	帝國政府は國民政府を對手とせずの重大聲明を發表す		粵漢線	
一、二七	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	和縣占領		粵漢線	
一、二八	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す			粵漢線	
一、二九	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す			海州、錦厦	
一、三〇	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す				

一、二〇	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を攻撃す			徐州、錦厦	
一、二二	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す			徐州、粵漢線	
一、二三	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す			衢州飛行場、粵漢線	
一、二三	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す			徐州、碭山	
一、二四	航空部隊は中・北支の軍事輸送施設を爆撃す			宜昌、寧波、衢州、白雲の各飛行場	十六機
一、二五	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す			厦門、天河の各飛行場	
一、二六	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を攻撃す			南京、衢州的各飛行場、粵漢線の各飛行場	三機
一、二七	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す			漢口、南昌、衢州的各飛行場	十五機
一、二八	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す			粵漢線	
一、二九	航空部隊は北支の軍事輸送施設を爆撃す			海州飛行場	
一、三〇	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す			廣東黃浦	

一、三一 航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す

三水、錦厦

○事變發生以來我海軍の撃破せる支那飛行機數

撃墜	確實のもの	稍確實を缺く	計
二六八	二二三	二九一	
地上爆破	三六三	三八	四〇一
計	六三一	六一	六九二

○事變發生以來の我損害

六五

(一月三十一日調)

二、一	航空部隊は中支の軍事輸送施設を攻撃す	玉山飛行場、寧波
二、二	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	厦門島
二、三	航空部隊は南支の軍事輸送施設並に敵陣地を爆撃す 陸戦隊は芝罘上陸完全占領す	廣東、厦門島、 粵漢線

二、四	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	廣東、立水、汕頭 粵漢線
二、五	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す	廣東、粵漢線
二、六	航空部隊は中支の軍事施設を攻撃す	麗水飛行場
二、七	攻撃を実施せず	
二、八	航空部隊は中・南・支の軍事輸送施設を爆撃す	漢口、宜昌、麗水の各飛行場、廣三線
二、九	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す	襄陽、安慶、南陽、長沙の各飛行場、廣九線
二、一〇	攻撃を実施せず	
二、一一	航空部隊は中支の軍事輸送施設を爆撃す	武昌
二、一二	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す	湯陰、夏庄、黃島占據
二、一三	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す	錦厦、九江附近
二、一四	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	英德、粵漢線、廣九線

二、一五	攻撃を実施せず			
二、一六	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を攻撃す		粵漢線、廣九線	
二、一七	航空部隊は中南支の軍事輸送施設を爆撃す		廣三線	
二、一八	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を猛撃す		粵漢線、廣九線	
二、一九	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す		衡陽、重慶、漢口、玉山の各飛行場	二十五機
二、二〇	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す		廣九線	
二、二一	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を猛撃す		粵漢線、廣九線、白雲、天河、衡陽、宜昌、吉安の各飛行場	二十二機
二、二二	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す		粵漢線、廣九線、新寧線、虎門飛行場	
二、二三	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す	敵機臺灣を空襲す	粵漢線、廣九線、吉安飛行場	六機

二、二四	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を攻撃す		粵漢線、廣九線、厦門、南雄、福州、漳州、衢州、玉山、麗水の各飛行場	一機
二、二五	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を猛撃す	嘉祥占領	梧州、建甌、南昌、麗水の各飛行場	四十三機
二、二六	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す		廣九線、粵漢線、新寧線、天河、自雲、虎門、漳州、南城、衢州、温州の各飛行場	
二、二七	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す		天河、韶關、衢州、玉山の各飛行場	一機
二、二八	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す		粵漢線、天河、從化、襄陽の各飛行場	

○事變發生以來二月末日に至る我海軍の撃破せる支那飛行機數

擊墜 (確實なもの) (計)
 地上爆破 三三九
 計 四二五
 七六四 八四八

○事變發生以來の我損害

七八
(二月二十八日調)

三、一	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		粵漢線、天河、白雲、虎門の各飛行場
三、二	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す	曲沃占據	粵漢線、廣三線
三、三	航空部隊は南支の軍事施設を攻撃す		
三、四			
三、五	攻撃を実施せず		
三、六		河津蒲州占領	
三、七		親日系要人周鳳岐氏上海にて暗殺さる	
三、八	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		漳州飛行場、隴海線
三、九	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す		粵漢線

三、一〇	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す	麻池溝占領	錦厦
三、一一	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	下任鎮方泉占領	廣九線
三、一二	航空部隊は馬蹟山島の敵を陸軍と協力して掃蕩す		
三、一三	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		南鄭飛行場
三、一四	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を猛撃す		南昌、南鄭、漢口、衢州の各飛行場、衢州、各飛行場、廣九線
三、一五	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		吉安、麗水、福州、各飛行場、廣九線、南昌
三、一六	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		漢口、福州、從化の各飛行場、粵漢線、沂州
三、一七	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		南昌、安慶、吉安飛行場、粵漢線

三、一八	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	陸軍部隊は揚陸し敵前上陸す	崇明縣城占領	衢州、南城の各飛行場、英德線	一機
三、一九	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を攻撃す	漂陽、宜興、如皋占據	廣九線		
三、二〇					
三、二一					
三、二二					
三、二三	攻撃を実施せず	陸軍部隊は航空に努む			
三、二四		黄河北岸の山に務む			
三、二五					
三、二六					
三、二七	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す	漢口、武昌、安慶の各飛行場、粵漢線		五機

三、二八	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す	中華民國臨時政府(中支新政權)南京に誕生す	南雄飛行場、粵漢線		
三、二九	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す		虎門、漳州、粵漢線		
三、三〇	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		琶江口、粵漢線		
三、三一	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す		吉安、福州の各飛行場、新寧線		
四、一	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	濮縣占據	廣三線、粵漢線		
四、二	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す		粵漢線		
四、三	航空部隊は南支の軍事輸送施設を攻撃す		韶關飛行場、虎門、固成、中山		
四、四	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		固始、駐馬店、麗水の各飛行場、粵漢線		
四、五	攻撃を実施せず				
四、六	攻撃を実施せず				

四、七	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す		宜昌、信陽、天河、從化、厦門各飛行場
四、八	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	泌源占領	從化、天河、沂州各飛行場
四、九	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を攻撃す		梅縣、漳州、粵漢線各飛行場
四、一〇	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		厦門、長沙、白雲飛機場
四、一一	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す		從化、梅縣、巖各飛行場
四、一二	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す。尙徳慶に於て大型運荷船一隻を擱座せしむ		麗水、寧波、福州、漳州、潮州各飛行場
四、一三	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		衢州、福州、温州、漳州、海州各飛行場
			十五機

四、一四	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		天河、白雲、廣九各飛行場
四、一五	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	林縣占領	錦州、廣九線、粵漢線
四、一六	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		漢口、廣九線、粵漢線
四、一七	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		漢口、白雲、廣九線、粵漢線
四、一八	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		沂州、廣東、漢口、武
四、一九	航空部隊は南北支の軍事輸送施設を爆撃す	沂州占領	昌各飛行場、武
四、二〇	特記すべきことなし		粵漢線、廣九線
四、二一	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す		大通、廣九線
四、二二	特記すべきことなし		
四、二三	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す。尙西江口にて大型ジャンクを爆沈す		粵漢線

四、二四	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	鄭城占領	文登、粵漢線
四、二五	航空部隊は中支の軍事施設を爆撃す	安北城占領	衢州飛行場
四、二六	航空部隊は北支の陸軍作戦に協力す	劉莊、伍祐場、和縣、含山占領	
四、二七	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す	鹽城占領	隴海線、福州飛行場
四、二八	航空部隊は中・南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		梅縣、龍巖、從化の各飛行場、隴海線
四、二九	航空部隊は南支の軍事輸送施設を猛撃す		漢口、白雲、從化の各飛行場、漢陽
四、三〇	航空部隊は中・南支の軍事輸送施設を爆撃す		衢州、長汀の各飛行場、歸德
<p>○支那事變發生以來五月一日迄に我海軍の撃破せる支那飛行機數 (夜間爆撃に依る成果並に格納庫内にて破壊せしものを含まず) (確實なもの) (稍確實を缺く) (計)</p> <p>地上爆破 三九八 計 四四八 八四六</p> <p>一〇二二 五〇〇 四四八 五〇〇 九四八</p>			

我方損害

八二一

五、一	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		粵漢線
五、二	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		粵漢線、隴海線
五、三	航空部隊は中・北支の軍事輸送施設を爆撃す		徐州、蕪湖
五、四	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		隴海線、粵漢線
五、五	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		宿縣、固鎮、蒙城、廣東
五、六	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す。尚英德附近にてジャンク群を爆破す	阜寧攻略	郟城、英德
五、七	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		隴海線、粵漢線
五、八	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		宿縣、阜寧、隴海線、粵漢線

五、一六	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す。尙三水附近にてジャンク群を撃破す	蕭縣、鳳凰山、毛庄、莞口占領	梅縣、龍巖、建甌、白雲の各飛行場、廣九線、徐州
五、一七	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	霸王山占領	粵漢線、高要飛行場、徐州
五、一八	航空部隊は陸軍の徐州攻略に協力す	陸軍徐州總攻撃張庄、宿縣占領	
五、一九		陸軍部隊徐州城內突入固鎮占領	
五、二〇	有力部隊は艦艇、飛行機援護の下に東連島、連雲港に敵前上陸を敢行占領す	徐州入城式	東連島、連雲港
五、二一	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		駐馬店
五、二二	陸戦隊は連雲港附近一帯の掃蕩完了		
五、二三	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		廣九線、海州
五、二三	航空部隊は徐州方面に於ける陸軍作戦に協力す	徐州大殲滅戦完了	駐馬店

五、一五	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	邳縣、社河集、尙郭庄占領	隴海線、天河、福州、漳州の各飛行場、碭山
五、一四	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	百善站、大營集、曹州占領	粵漢線、隴海線、漳州、潮州、高要の各飛行場
五、一三	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		汀河の各飛行場、徐州
五、一二	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す	永城、韓村集、臨漁集占領	梅縣、龍巖、長汀、天河の各飛行場、白雲の各飛行場
五、一一	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		津浦線、龍巖、長汀、福州、建甌、天河、白雲の各飛行場
五、一〇	航空部隊は南・北支の軍事輸送施設を爆撃す		徐州、厦門島
五、九	航空部隊は北支の軍事輸送施設を爆撃す		宿縣、新安鎮

五、二四	航空部隊は中、北支の軍事輸送施設を爆撃す	蘭封陥落 陳留口占領	淮陰、淮安、潁陽、大沙河鎮、濶	
五、二五	航空部隊は南、北支の軍事輸送施設を爆撃す	寺内、畑兩指揮官歴史的會見をなす	南陽、襄陽、老河口の各飛行場、粵漢線、廣九線、海州	一機
五、二六	航空部隊は南、北支の軍事輸送施設を爆撃す		玉山、麗水、長汀、龍巖、溫水、浦城、南城の各飛行場、粵漢線	四機
五、二七	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		廣九線、廣東	
五、二八	航空部隊は中、南支の軍事輸送施設を爆撃す	歸德攻略	南雄、廣省、寧波、諸賢、南城、贛縣の各飛行場、粵漢線、海州	
五、二九	航空部隊は南、北支の軍事輸送施設を爆撃す		廣東、海州	
五、三〇	航空部隊は南、支の軍事輸送施設を爆撃す	毫縣占領	福州、浦城、建甌、麗水、衢州、玉山、湖潭、寧波の各飛行場、廣東	

五、三一	航空部隊は中、南支の軍事輸送施設を猛撃す	寧陵占領 徐州治安維持會結成す	漢口、粵漢線白雲飛行場	二十機
六、一	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す 江上艦艇は洋上磯附近江岸の敵と交戦しつ、機雷を處分す 陸戦隊は芝罘を襲へる敵匪多數を撃退す		粵漢線	
六、二	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す 江上艦艇は洋上磯附近で江岸の敵を攻撃しつ、掃海作業を續く		南雄飛行場	
六、三	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す 江上艦艇は太子磯大通方面にてジャシクを撃破す 艦艇部隊は黃海沖で大型ジャンク數隻を撃破す	柘縣、柘城占領	浦城、建甌、長汀、龍巖の各飛行場	

六、四	航空部隊は中、南支の軍事輸送施設を爆撃す	鳳臺占領	安慶、九江の各飛行場、廣九線
六、五	航空部隊は中、南支の軍事輸送施設を爆撃す	壽縣占領	玉山、麗水、南陽、白雲の各飛行場、廣東、廣九線、粵漢線
六、六	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す	正陽關陥落	廣東、天河飛行場
六、七	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		天河飛行場、粵漢線
六、八	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		白雲、韶關、建甌、浦越、龍巖、長汀、廣昌の各飛行場、廣九線
六、九	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す	舒城攻略	
六、一〇	江上艦艇は航空部隊の協力の下に王磐州附近兩岸の敵陣地砲臺を猛撃す		

六、一	江上進攻を列國に通知す揚子江進攻部隊は陸軍進出部隊と協力し兩岸の敵を制壓しつ、遼江す		
六、二	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す		粵漢線、廣九線、從化飛行場、福州
六、三	航空部隊は南支の軍事輸送施設を爆撃す	安慶占領	福州、惠安、建甌の各飛行場、粵漢線
六、四	航空部隊南支方面に活躍、敵の軍事施設その他飛行場を爆撃す		廣東、粵漢線、福州、惠安、建甌飛行場、桂林飛行場
六、五	航空部隊襄陽、信陽飛行場を爆撃す		襄陽、信陽飛行場、馬當鎮
六、一六	航空部隊南支、中支を爆撃す、龍南(廣東、江西省の境)空襲部隊は敵機と交戦、三機を撃墜、我方二機行方不明		廣東、天河飛行場、龍南、淮陰、淮安
六、一七	航空部隊海南島その他を空襲す	潜山占領	新寧線、海口(海南島)

六、二七	敵軍大運河堤防を決潰す	揚子江岸	
六、二八	安慶上空に於て來襲の敵爆撃機を撃退す 南昌飛行場を爆撃す	安慶 南昌	二機撃墜 三機爆破
六、二九	揚子江上、海軍水上機を以て敵機を撃退す	吉安、廣九線、粵漢線	一機撃墜
六、三〇	航空部隊廣東軍事施設を爆撃す	廣東	
七、一	航空部隊、中・南支に活動、揚子江上敵艦威寧(四五〇噸)を損傷せしむ	九江上流艦艇粵漢線、福州、汕頭	敵艦威寧一隻損傷
七、二	航空部隊揚子江上に於て空中戦を交へ、敵爆撃機S B型を撃墜す	揚子江上、來襲機、汕頭、潮州	一機撃墜
七、三	航空部隊揚子江上及び安慶上空に於て來襲の敵機と空中戦を交ゆ	揚子江上、來襲機、安慶、來襲機、田家鎮艦艇	二機撃墜 一機撃墜 一機撃墜 八機沈没

六、一八	航空部隊中・南支を爆撃す	馬頭鎮、福州、韶關、海口	
六、一九	右同	馬頭鎮、粵漢線、廣九線、海南島	
六、二〇	右同	龍巖、梅縣、龍南飛行場、廣九線	
六、二一	右同	馬頭鎮、建甌、南城、廣昌、汀州、梧州飛行場、長、梧州飛行場、粵漢線、廣九線	
六、二二	右同	廣東白雲飛行場、粵漢線、汕頭	
六、二三	右同、揚子江岸陣地及び敷設艦を爆撃す 海軍遡江部隊、安慶進發、上流に向ふ	揚子江岸、福州、馬尾、汕頭、廣東	
六、二四	航空部隊、中南支に於ける敵軍事施設等を爆撃す	揚子江岸、乘昌、韶關、廣九線、瓊州(海南島)汕頭	二機爆破 十九機撃墜
六、二五	航空部隊江岸陣地を爆撃す	揚子江岸、阜寧	
六、二六	海軍航空部隊南昌空襲 海軍陸戰隊陸軍部隊と協力、揚馬頭鎮攻略	南昌、揚子江岸、廣九線、梅縣、潮州、海南島	

七、一八	南郷大尉愛機と共に碎け散る	南昌を空襲し、飛行場に著陸、敵機を焼く	南郷大尉愛機と共に碎け散る	九江下流粵漢線	陸行場(飛)
七、一七	航空部隊南昌飛行場を爆撃す		南昌飛行場	南昌飛行場	七機爆破
七、一六	航空部隊海口上空に於て空中戦	張鼓峰事件對ソ 抗議、ソ聯撤兵 要求拒絶	漢口飛行場	漢口飛行場	三機撃墜 三機爆破
七、一五	航空部隊南昌飛行場を爆撃す	閣議でオリ ソク大會中止、 萬國博覽會延期 決定	九江下流	九江下流	破十五機爆
七、一三	航空部隊湖口上空に於て空中戦		湖口來襲重爆撃	湖口來襲重爆撃	二機撃墜
七、一二	右同	ソ聯兵不法越境 張鼓峰占據	武修、玉山飛行 場、田家鎮、 廣東、漳州	武修、玉山飛行 場、田家鎮、 廣東、漳州	敵艦二隻 爆破

七、四	航空部隊南昌大空襲 海軍陸戦隊陸軍部隊と協力、湖 口を占領す		南昌	南昌	四十五機 撃墜六機 爆破
七、五	航空部隊大湖附近に於ける敵の 部隊、船舶を爆撃す	獨軍事顧問漢口 引揚	太湖附近	太湖附近	戒克十餘 隻爆破
七、六	航空部隊中・南支方面を爆撃す		揚子江上、建 瓏	揚子江上、建 瓏	
七、七	右同 事變一周年に際し勅語を賜ふ	支那事變勃發一 周年記念日 上海に爆弾事件 佛の西沙島占領 に抗議	福州、粵漢線、 三水	福州、粵漢線、 三水	
七、八	安慶上空に於て空中戦を交ゆ		安慶來襲機 武穴、粵漢線	安慶來襲機 武穴、粵漢線	二機一機 (地上砲 火)
七、九	湖口、黄石港間の地域より第三 國艦船の撤退通告 航空部隊南昌、衝陽飛行場を空 襲す		南昌 衝陽飛行場 田家鎮	南昌 衝陽飛行場 田家鎮	四機爆破
七、一〇	航空部隊中・南支を爆撃す		田家鎮、信陽、 虎門	田家鎮、信陽、 虎門	
七、一一	右同		田家鎮、粵漢、 廣九線	田家鎮、粵漢、 廣九線	

七、二四	ソ聯軍事顧問二十名、飛行士三百名漢口に到着			粵漢線	
七、二五					
七、二六	海軍陸戰隊、九江に突入す	九江陥落	九江附近		砲艇一隻
七、二七	航空部隊漢口、武穴上空に於て空中戦	國府漢口外交部閉鎖、重慶移轉	粵漢線、南潯線漢口、武穴附近		二機撃墜
七、二八	航空部隊、中支方面を爆撃す		田家鎮、南昌		
七、二九	同		大通		
七、三一	同	我軍張鼓峰、沙草峰占領	九江		砲艇三隻、炎上三隻、克十數隻
八、一	航空部隊九江上流の敵艦船を爆撃す	宿松占領	九江上流		砲艇三隻、砲艇三隻
八、二	敵軍長江上流に於て長江堤防を破壊す	黃梅占領	新洲、九江下流陣地、京漢線信陽、廣九線江岸		砲艇三隻、砲艇三隻、運送船一隻

七、一九	漢口飛行場を空襲し多大の戦果を擧ぐ		廣九線 漢口飛行場		二機撃墜 一機爆撃 十機損傷
七、二〇	航空部隊、岳陽を襲ひ敵艦船を爆撃す		武昌、蛇山、黃石磯上流 粵漢線		運貨船二隻爆沈、二隻損傷
七、二一	航空部隊、中・南支を爆撃す		岳陽艦船 粵漢線		軍艦二隻、爆沈、四隻
七、二二	同		廣九線、京漢線、信陽、九江附近 粵漢線		軍用船一隻、二隻、十數隻
七、二三	同		漢口、孝感飛行場、荆門、宜昌、長沙、廣九、粵漢線		三機爆破
七、二四	同		長沙飛行場、九江、粵漢線		地上四機損傷

八、 一一右	八、 一〇右	八、 九右	八、 八航空部隊、中・南支方面を爆撃す	八、 七航空部隊南昌飛行場を襲ふ
同	同	同		
	日ソ停戦協定成立(張鼓峰事件)			
廣州、高要、粵漢、廣九線	漢口、武昌、漢陽、黃石港、梧州	廣東、粵漢線、廣九線、白雲飛行場	吉安飛行場、樟樹鎮、太湖西方、蕪春	南昌
	水雷艇一隻爆破	軍用船一隻爆破	軍用船二隻爆破	

八、 六航空部隊漢口飛行場を爆撃す	八、 五航空部隊、中・南支方面を爆撃す	八、 四航空部隊、中支方面を爆撃す	八、 三航空部隊漢口上空に於て空中戦を交へ多大の戦果をあげ航空部隊九江上流に於て敵砲艦艇を爆撃す
漢口、麗水、玉山、粵漢線、黃石港、鄂城、洋山磯陣地	田家鎮、廣九線	黃石港、長江沿岸	漢口、九江上流、黃石、彭澤
汽船二隻敷設艇三隻爆破	十五機爆破	戎克十數隻爆破	三十二機、擊破七機、砲艦一隻、砲艇一隻、破砕數隻、克沈數隻

八、一二	右 九江上空に於て空中戦を交へ敵機を撃墜す		武漢三鎮 黄石港 九江、廣九線	汽艇一隻 戎克四隻 爆破機五機撃墜
八、一三	航空部隊、中・南支方面を爆撃す		漢口、吉安、南昌、陽春、玉山、寧波、麗水、黃州	汽船一隻 爆破機數隻 戎克數隻
八、一四	右 同		粵漢、廣九線	二機撃墜
八、一五	航空部隊九江上空に於て空中戦を交へ、敵機を撃墜す		九江、廣九線	
八、一六	航空部隊、中・南支方面を爆撃す		武漢三鎮 江岸陣地 白雲飛行場	
八、一七	右 同		長沙、江岸陣地 粵漢線	

八、一八	海軍衡陽飛行場を襲ひ、敵機を撃墜す 航空部隊江岸鄂城附近に於て敵の江上艦艇を爆撃す、又九江方面より來襲の敵機を撃墜す		衡陽飛行場 寶慶 鄂城	十六機撃墜 機爆破 軍用船一隻、擊沈、來襲機四機撃墜
八、一九	航空部隊、中・南支方面を爆撃す		粵漢、廣九線	戎克 爆沈
八、二〇	右 同		瑞昌、德安、星子、武穴、田家鎮、粵漢、廣九線	
八、二一	右同、海軍陸戰隊鄱陽湖岸の要地星子を占領す	星子占領	武昌、江岸陣地	
八、二二	航空部隊、中・南支方面を爆撃す		株州、江岸	
八、二三	右 同		株州、江岸	
八、二四	右 同	瑞昌占領	宜昌飛行場 瑞昌、廣九線	

八、二五	右同		長沙、吉安、梧州 粵漢線	
八、二六	右同		長沙、瑞昌、粵 漢線	
八、二七	右同		瑞昌、廬山、南雄 飛行場、粵漢線	
八、二八	右同	六安城占領	瑞昌陣地	
八、二九	右同	獨山鎮占領	京山、赤湖、粵 漢線	
八、三〇	航空部隊長沙飛行場を空襲、敵機を撃墜、格納庫を爆破炎上せしむ 南雄を空襲し、敵機全部を撃墜、我方二機を失ふ		長沙 廬山西方、赤湖 西方 廬縣飛行場（南支） 韶關飛行場 南雄	三機撃退 格納庫爆 破 地上三機 大破 十七機撃 墜
八、三一	航空部隊、中・南支方面を爆撃す		長沙方面、赤湖、 廬山西方、江北 戰線、株州、粵漢 線、豐順（南支）	

九、一	一航空部隊、中・南支方面爆撃		江岸陣地、德安 附近、粵漢、廣 九線	
九、二	右同		江岸陣地、粵漢 線、梧州飛行場	
九、三	右同	馬廻嶺占領	廬山方面、粵漢 線	
九、四	右同		瑞昌、馬廻嶺、 廣濟、粵漢線	
九、五	右同		岳州、信陽、南 昌、廣濟、馬廻 嶺、德安、瑞昌 粵漢線	
九、六	右同	廣濟城占領	南昌、寧鄉、德安 瑞昌、粵漢線	
九、七	九江上空に來襲せる敵重爆撃機六機中、三機を撃墜す	我が新鋭大兵團塘沽上陸	漕家鎮、蕪水、 瑞昌陣地、九江 上流	三機撃墜
九、八	航空部隊、中・南支方面爆撃		武穴陣地、吉安 飛行場	
九、九	右同		玉山飛行場、江 岸陣地、粵漢線	
九、一〇	右同		江岸陣地、京漢 線、粵漢、廣九 線	

九、一三	柳州飛行場を空襲、敵機を撃墜、爆破す	富金山占領	光山、江岸、廣九線	三機撃墜、十數機爆破
九、一二	右同		江岸、瑞昌、高城、廣濟、羅山、孫鐵舖、南城	
九、一四	海軍陸戰隊馬頭鎮に突入す	馬頭鎮占領	武穴、廣濟、劉公河陣地	
九、一五	航空部隊、中支方面爆撃		田家鎮、蕪州、武穴、馬鞍山、瑞昌陣地	
九、一六	航空部隊、中・南支方面爆撃	高城占領	木石橋、黃土橋、大楓林、沙幅嶺、陣地、粵漢線	
九、一七	右同 海軍陸戰隊、陸軍部隊と協力、武穴を占領す	武穴占領	江岸部隊、梧州、虎門飛行場	
九、一八	右同		粵漢線、柳州飛行場	
九、一九	右同	友那臨時政府機構改革發表	梧州、粵漢線	鐵橋爆破

九、二〇		光山占領		
九、二二	航空部隊、中・南支方面爆撃		長江南北方、欽縣(廣西省)	
九、二三	中華民國政府聯合委員會創立式典		中支一帶	
九、二三	航空部隊、中・南支方面爆撃		欽縣、武鳴、南寧、粵漢線	軍艦一隻、沈(黃石港)上流
九、二三	右同		中支一帶、欽縣、源潭	
九、二四	右同		宗埠、青陽	
九、二五	右同		蕪春、田家鎮、陽春、通山、貴陽飛行場	機艇、四、克群、十、數隻爆破

九、二六	右同 維新政府南京移轉		田家鎮、半壁山、 柳州、桂林飛行 場、京漢線、粵 漢線		
九、二七	航空部隊、南支爆撃		鳴林、柳州、武 鳴飛行場		
九、二八	昆明(雲南省)初空襲、敵機を撃 墜、爆破す、我方一機を失ふ		昆明 信陽、江岸、白雲 天河、從化飛行 場(南支)		十六機撃墜 破四機爆 炎上八機
九、二九	海軍陸戰隊、陸軍部隊と協力、 田家鎮を占領す	田家鎮占領			
九、三〇	航空部隊、江岸陣地を爆撃す		江岸、田家鎮		
一〇、一		四相會議で對支 機關要綱決定			
一〇、二					
一〇、三	航空部隊、南支を爆撃す		廣九、粵漢線		

一〇、四	梁山飛行場を襲ひ、空中戦を交 へ、敵機を撃墜、爆破す 海軍陸戰隊、田家鎮の對岸半壁 山要塞を占領す	半壁山占領	梁山飛行場 重慶飛行場 孝感、襄陽、老河 口飛行場	九機爆墜 七機撃破
一〇、五	漢口上空附近にてE十六型六機 を認め、敵機を撃墜 海軍陸戰隊、馬鞍山占領	馬鞍山占領	漢口附近、京漢 線通山附近、 廣東附近、虎門 砲臺、廣九線	三機爆破 二機撃墜
一〇、六	海軍陸戰隊、毛林堡壘占領	毛竹林堡壘占領		
一〇、七				
一〇、八	海軍陸戰隊、陸軍部隊と協力、 蕪春を占領す 海軍遼江艦艇、蕪春水道の水路 啓開を完了す	蕪春占領	衡陽飛行場 長江方面 平樂桂林 粵漢線 中支方面、粵漢 線、天河飛行場	格納庫、 地上機爆 破 兵舎十七 棟爆破
一〇、九				
一〇、一〇	海軍陸戰隊、火山占領、航空部 隊夜間衡陽飛行場を襲ひ、敵軍 施設を爆撃、我方二機損失	火山占領	粵漢線、衡陽飛 行場、長江方面 廣九、粵漢線	

一〇、一一	廣東攻略軍バイアス灣敵前上陸	信陽占領(京漢線)	長江方面、粵漢線	
一〇、一二			中支方面、廣九	
一〇、一三			粵漢、廣九線	戰車八十餘隻、汽艇破
一〇、一四			惠州、博羅、增城、黃溪頭陣地、廣九線	
一〇、一五		惠州占領	惠州、陸豐、增城、方面、石灰窰、黃石港、京漢線、粵漢線	
一〇、一六	海軍陸戰隊、石灰窰を攻略す	石灰窰占領	粵漢線、博羅、從化、廣九沿線	
一〇、一七			京漢、粵漢線、德安、石灰窰、南雄、樂昌韶關飛行場	
一〇、一八		陽新占領	南支戰區	
一〇、一九	海軍陸戰隊、江岸要地黃石港を占領す	黃石港占領	粵漢線、天河、白雲、從化飛行場	

一〇、二〇		大冶占領	南支戰區翁源、增城	
一〇、二一		廣州市入城	南支戰區長江沿岸、江北方面	
一〇、二二	珠江口上陸、漢口、廣東碇泊の第三國艦船に避難要請、梁山飛行場を空爆す		漢口、武昌、梁山飛行場	五機擊墜、八機爆破
一〇、二三			武昌、白濤山、南支戰區	
一〇、二四			武昌、長江	
一〇、二五	漢口一角占領		粵漢線潭州附近	魚雷艇炎上
一〇、二六	遼江部隊全部漢口前面に進入、陸戰隊漢口上陸	武昌占領	三水方面	
一〇、二七	武漢三鎮を完全に占領	德安陥落、漢陽占領	三水方面	
一〇、二八		蔣、參政會議で抗戰聲明	翁源、英德、梧州、陸豐、東江、西江陣地	

一〇、二九			
一〇、三〇			翁源、益埠
一〇、三一			翁源、英德

支那事變に於ける帝國海軍の行動 (續)

(漢口攻略後より海南島上陸迄)

支那事變に於ける帝國海軍の行動 (續)

(漢口攻略後より海南島上陸迄)

目次

一、敵空軍殲滅戦……………	一
二、制海・制江・制空の回顧……………	四
(イ)海上制覇―(ロ)戦史に輝く揚子江遡江作戦―(ハ)海軍航空部隊の活躍―(ニ)南支 支作戦の新展開	
三、漢口・廣東確保より海南島攻略迄……………	三
(イ)南支爆撃行續く―(ロ)海軍陸戦隊の中支掃蕩戦―(ハ)中支江上作戦―(ニ)南支 作戦―(ホ)海軍航空隊の行動―(ヘ)江蘇省北部作戦	
四、海南島攻略戦の新展開……………	五
(イ)海南島奇襲上陸―(ロ)海南島攻略戦の経過―(ハ)海南島	

一、敵空軍殲滅戦

廣東並びに漢口陥落以後、珠江遡江作戰と揚子江遡江作戰は依然と續行され、一方海軍航空部隊はいよ／＼全支をその鵬翼ほうよく下に收め、今や敵空軍殲滅戦成り、殘機せんめつの蟄伏ちゅうふくするもの僅かに百數十機を算するのみとなつた。

そも／＼航空戦は海戦とも陸戦ともその趣を異にする。海戦の勝敗がたゞ一回の決戦に依つて決せらるゝ事情とも異り、又陸戦に見るが如く、兵力の補充が可能である限り大會戦が屢々繰返さるゝ狀況とも異り、恐らくその中間にあるのではないかと考へられるのである。

凡そ航空戦の場合は、戦争の立上りに於て敵に一大痛撃を與へ得た側に勝利が存するといひ得るのである。空軍の補充再建必ずしも不可能である

とはいへないが、一敗地に塗れた空軍が、短期間にその再建を企圖することは、飛行機生産能力の點に於ても、飛行士補充の點に於ても、至難の業であるといはねばならぬ。況んやその再建途上に於て敵から息をもつかぬ猛攻撃を受け、しかも飛行機生産能力と人員補充の點に缺陷がある場合、再建が不可能であるのは當然である。

今次事變勃發するや、わが海軍航空部隊が帝國海軍の制海の下に一齊に起ち上り、敵空軍を撃破して一大打撃を與へたことは、爾後敵空軍の再建を絶望的ならしめ、その潰滅を速かならしめた要因であつたといひ得る。

今や海軍航空隊のみに依つて撃墜爆破した敵機の數は、千四百機を突破するに至つたのである、そして支那には飛行機を生産する能力無く、ひたすら援蔣の列強からの輸入に俟つより外なく、人員の補充に至つては、も

はや手の下しやうも無い有様でこれ亦、外國の飛行士に頼らなければならぬ状況である。

スペイン戦線が列強の飛行機の試験場であるといはれてゐたが、支那大陸の空も同様各國飛行機的能力試験場と化した觀がある。それは支那空軍が英・米・佛・ソ・伊等各國のサンプル飛行機を寄せ集めたものであるからである。

そしてスペイン戦線で功績を立て、及第したソ聯の優秀機イ十六型の如きも、わが海軍航空隊のテストに會つてこちらの試験場では落第させられて了つた。その他各國が精銳を誇つた飛行機の性能の程も、よく検討させて貰つた。その上にソ聯飛行士の御手並まで拜見に及んで大いに参考となつた次第である。

かくて今や支那空軍殲滅戦は成就された。蓋し功の成るは成るの日に成るに非ず、必ず由つて來る所あり、我等はこの得難き實戦の經驗と合せ考へて、帝國海軍の自主的軍備の一翼たる海軍航空隊の充實強化に邁進しなければならぬ。

一、制海・制江・制空の回顧

昨年七月七日事變一周年記念日に際し、畏くも優渥なる勅語を賜はり、皇軍の全將兵恐懼感激措く所を知らず、いよ／＼感奮興起して一死報國を誓ひ、爾來戦局は頓に目ざましき進展を遂げて、その輝かしき戦果はいよ／＼擴大され、十月に入つて更に南支への渡洋進攻作戦となつて現はれ、南支抗日の一大據點たる廣東を一舉に屠つて武漢三鎮最後の日を早め、十

月二十七日早くもこれを完全に攻略するに至つた。

こゝに帝國は武漢三鎮攻略の歴史的偉業を完成して、聖戦に新たなる一線を劃するに至つたとはいへ、皇軍は尙ほ鉞を收めず、蔣政權並びにその率ゐる抗日軍の潰滅を期し、聖戦終局の目的達成に向つて一途に邁進しつゝ、着々として戦果を保全し擴大しつゝある現状である。

茲に聖戦の跡を回顧しつゝ、新東亞建設の前途に備ふることは、極めて意義深きことになるのみならず、われ／＼の當然なさねばならぬ責務であると信ずる。

曩に「制海、制空の一年」(週報第九十號)と題し、今事變勃發以來昨年七月七日に至る迄の間に於ける海軍作戦行動の全般に互つて概説を試みたので、本稿に於ては其の後に於ける作戦行動の概要について略述すること

とする。

固よりわが作戦行動は終始一貫せるものであつて、わが海軍の執り來つた作戦行動を要約すれば、事變以來依然として左記事項を擧げることが出来るのである。

- (一) 海上制覇
- (二) 陸戦隊の奮戦活躍
- (三) 海軍航空部隊の奮戦活躍
- (四) 支那船舶の交通遮斷
- (五) 揚子江及び珠江作戦並びに兩水路の啓開
- (六) 敵の要地占領
- (七) 陸軍との協同作戦

右の諸項については、曩に事變一ヶ年間に於ける経過とともに、その意義に關しても略述したので、こゝではその後_に於ける経過を概説すると同時に、前稿に必要な補足をするこゝとする。

(イ) 海上制覇

海上制覇に關しては既に前稿に於ても述べた通りであり、尙ほまた「今次事變と我が制海權」(週報第百十號)に於て詳説した所であり、次いで更に「新東亞建設と海軍力」(同第百十一號)と題して帝國海軍軍備充實の急務を力説し、西太平洋の制海權を確保することが新東亞秩序の建設と密接不可分の關係にあり、これなくして東亞再建の偉業は完成不可能なる所以を闡明した。

(ロ) 戦史に輝く揚子江湖江作戦

わが陸海軍の漢口進攻作戰開始を、堂々第三國に通告したのは、昨年六月十一日であつた。

爾來安慶の占領をはじめとし、潜山・馬頭鎮等を攻略し、次いで七月四日には湖口を占領して長江を樞軸とする武漢三鎮の攻略戦は頓にその鋭鋒をあらはし、急角度の轉回を見るに至つた。

この長江進撃作戰こそは、海陸協同作戰の眞髓を發揮したものであつて、江・陸・空渾然一體の皇軍が緊密なる連繫連絡の下に、一絲紊れず一路武漢を目ざして神速果敢なる進撃を敢行した姿は、世界戦史上一大偉觀たるを失はないものであつた。

就中わが海軍航空部隊の活躍振りに至つては、敵機の撃墜撃攘に、江岸敵陣地の粉碎、敵兵の爆撃掃射に、連綿絶え間なき協力奮戦を續け、終始

長江作戰を全面的に援助し、その速戦即決に寄與せるところ絶大なものがあつたのである。

これが武漢三鎮の攻略を目ざすわが長江作戰の全貌であつて、前述の如く六月十一日以来四ヶ月有餘に亘り、晝夜を措かず戦闘の連鎖であり、繰返してあつたのである。即ち、七月四日湖口占領以來、わが海軍遡江部隊は陣容を整へて、着々九江攻略の準備を進めつゝあつたが、二十三日黎明を以ていよいよ海陸協同の進撃を開始し、一部隊を以て陸軍の翻陽湖畔上陸を掩護して見事これを成功せしめ、他部隊を以て二十三、二十四日兩目に亘り九江下流兩岸の敵砲兵陣地と激戦を交へてこれを制壓し、濁流に出没する機雷原を突破しつゝ二十四日の夕刻には早くも九江を指呼の間に望んだ。

かくて敵動搖の兆漸く顯著となつた二十五日午前、命令一下、各部隊は威風堂々と九江に向け進撃を開始し、敵砲兵陣地からの猛射を物ともせず、機雷原を強行突破しつゝ、頑敵を潰滅し、先頭第一艦を以て午後一時九江前面に突入、引続き後続部隊を以て午後三時旗艦を陣頭にその全力を擧げて突入し、こゝに完全に南京・漢口間揚子江隨一の要衝九江の江面を制壓するに至つた。漢口はこれより陸路約五十里。

この時既にわが先頭部隊は、九江上流三哩に達して、江岸隘路の敵退路を遮断し、次いで特別陸戦隊は九江上流に敵前上陸を敢行して江岸を占領、戦果をいよゝく擴充した。この間わが海軍航空部隊は、連日に互り敵砲兵陣地に對して猛爆撃を繰返し、地上部隊の進撃に即應し、わが陸軍の上陸に當つては、夜陰よく敵を猛撃し、緊密な連繫を確保しつゝ、所在敵兵

力を完膚なきまでに猛爆して海陸共同作戦の實を完うした。かくて二十六日午前八時三十分、陸戦隊は舊イギリス租界より西部飛行場一帯を、陸軍は爾餘の市街を占領し、こゝに兩軍の直接連絡成り、九江攻略の偉業は完成せられ、敵の武漢防衛陣はいよゝく崩壊を早めるに至つた。

八月二十一日、わが陸戦隊は、星子南門より城内に進入、敵の抵抗を排除して東門より入城せる陸軍部隊と協力、同市を完全に占領した。

同時にわが江上艦艇は星子前面に進出、水路を掃海清掃し、湖岸敵陣を攻撃制壓して攻略部隊を支援進出せしめた。

九江占領後江岸に敵前上陸を敢行せる海軍陸戦隊は、陸軍部隊と協力し九月十四日武穴對岸馬頭鎮を攻略した。

一方遡江艦艇の作戦は頓に進展し、空・陸相呼應して江岸の敵を制壓し

つゝ、機雷原を突破、水中妨害物を清掃し一路進撃を續けた。

十六日武穴下流に敵前上陸を敢行した海軍陸戦隊は、江上艦艇並びに海軍航空隊と協力し、翌十七日武穴を完全に占領した。

武穴を攻略した海軍陸戦隊土師部隊は、數日來武穴北方及び西方山岳地帯の堅固な陣地に蟠居する十數倍の敵と對峙し、連日連夜激戦中であつたが、海軍航空隊の適切なる掩護爆撃及び江上艦艇に依り浮足立つた敵を猛襲急追し、九月二十九日、田家鎮要塞の一角、その前衛たる象山砲壘を占領、十月四日江上艦艇、海軍航空部隊及び一部陸軍部隊協力の下に、田鎮對岸半壁山要塞を占領し、城砦高々と燦たる旭日の軍艦旗を翻した。

かくて揚子江遡江作戦はいよいよそのテンポを早め、十月八日遡江部隊は蕪春を占領するや、息をもつかず進撃を續行、江岸よりの猛射を冒して

勇猛果敢な敵前掃海作業を進め、夕刻迄に蕪春上流蕪春水道の水路啓閉を完了した。

これより先き十月五日、半壁山を占領した海軍陸戦隊は、尙ほもその攻撃の手を緩めず、その西南方馬鞍山の堅壘に對して猛攻撃を開始し、同日完全にこれを占領し、山頂高く軍艦旗を翻した。

次いで海軍陸戦隊は、更に海軍航空部隊と江上艦艇の有効なる支援の下に、陸軍部隊と協同して、その西北方江岸に沿ふ山岳地帯を追撃して涂家灣の線に進出した。

十月六日には半壁山上流毛竹林一帯の高地を占領、八日蕪春市内の掃蕩を敢行し、市の内外を完全に確保した。

そして十月十日には江南岸の要衝火山を占領し、山頂高く感激の軍艦旗

を翻した。

かくてわが軍艦旗は刻一刻長江を遡つて武漢三鎮に迫りつゝあつたが、わが南支渡洋進攻部隊が突如バイアス灣に奇襲上陸を決行した同じ日の十月十二日未明、長江に在つては、わが陸戦隊が蘄春の上流對岸に敵前上陸を敢行し、十五日石灰窰せきくわいやうの關門たる西塞山を猛攻、斷崖絶壁を攀ぢ上り、同日山頂を占據し、翌十六日陸軍部隊と協力、石灰窰を占領した。

次いで十月十九日、黄石港は完全にわが陸戦隊の手中に歸したのである。

二十二日、わが陸戦隊は陸軍部隊と協力して鄂城下流江岸に敵前上陸を決行し、次いで鄂城を占領した。

この時江上艦艇の最前線は團風水道だんぷうを突破し、漢口の咽喉げんごうを扼する地點

に達し、翌二十三日夕刻には武漢を距る僅かに十一里の地點に肉薄した。二十四日には白滸山青山砲臺並びに江岸附近一帶から、最後の抵抗を試みる重砲、野砲の十字火を冒して江上江岸を制壓しつゝ、第一線閉塞を啓開して葛店鎮かつてんちん前面に進撃した。

かくて武漢三鎮最後の日は遂に來た。

十月二十五日午前四時三十分、わが軍は陸海軍協同して漢口の一角に進入したのである。

翌二十六日、海軍遡江部隊は午後五時遂に全部漢口前面に進入した。午後六時全艦艇の將兵は一齊に東方に向ひ皇居を遙拜し、近藤司令官の發聲の下に、天地も崩れよとばかり 天皇陛下萬歳を三唱したのであつた。

尙ほ一部遡江部隊は更に上流に向け進撃を開始し、海軍陸戦隊は漢口に

上陸して、夕刻迄に各擔任區域の警備に就いた。

明くれば十月二十七日、わが軍は海陸協力して殘敵を掃蕩し、午後五時三十分遂に武漢三鎮を完全に攻略し、こゝに歴史的偉業を完成したのである。

これより先き十月二十一日、南支抗日の一大據點廣東は脆くも皇軍の手に歸し、本作戦の成功が武漢三鎮の攻略戦に及ぼした絶大な影響は實に計るべからざるものがあつた。

今や廣東と漢口は相踵いで陥ち、兩據點の地理的並びに政略的、軍略的地位に照らし、兩都市のそれくゝの持つ抗戰的使命に鑑みる時、蔣政權が政治的にも軍事的にも將た又經濟的にも一大打撃を滿喫し、もはや一地方政權に轉落しその率ある抗日軍隊亦、土豪的匪賊的存在に墮し了つたことは疑ふ餘地はない。

かくて廣東攻略の成功並びに武漢三鎮攻略を目標とした長江大作戦の赫やく戦果は、今事變に更に新たなる段階を劃したのである。

武漢三鎮攻略以後、わが遡江部隊は尙ほも上流へ上流へと進撃を續行、十一月七日機雷原を強行突破して、その先頭は漢口を距る九十哩の赤壁の下流に達し、十一月十三日にはその先頭部隊は雷鼓山機雷堰を突破して、遂に岳陽（岳州）に突入、これを占領し、遂に漢口岳州間百三十哩の水路啓開を完了した。そして十五、十六日引續き戦果を擴大中、敵砲艦「江貞」（五五〇トン砲艦）「民生」の二艦を鹵獲した。

（ハ）海軍航空部隊の活躍

苟くも皇軍作戦の實施せらるゝ所、大小の戦闘の行はるゝところ、時と

處とを問はず、そこには常にわが海軍航空部隊の協力があり、獻身的の活躍がある。

事變以來、わが軍が世界戦史に比類なき海陸協同作戰の眞髓を發揮し得たことも亦わが海軍航空部隊に負ふ所が多であつた。前項の長江を樞軸とする遡江作戰に於ても勿論さうであつたが、大陸奥地に於ける純然たる陸軍部隊の戦闘に際しても、例へば彼の徐州や漢口の大會戦の如きに於ても、海軍航空部隊の協力活躍は眞に涙ぐまじきものがあり、こゝにも亦克く海陸協同作戰の實を挙げ得たのであつた。

そして事變の進展、戦局の擴大につれて、わが海軍航空部隊はいよいよその鵬翼を全支の空に擴げ、遠く甘肅省の蘭州らんしゅうをはじめとし、四川省の成都、雲南省の昆明等を襲うて、今や全支の制空權を其の翼下に收めるに至つた。

最近彼の疾風枯葉こくようを捲く廣東の攻略戦に際して、わが海軍航空部隊の活躍がいかに目ざましいものがあつたかは、十月十二日拂曉皇軍がバイアス灣に奇襲上陸を敢行して以來、廣東攻略までの間に活躍せるわが海軍機の延機數二千機、投下爆彈數六千九百發、同重量五百六十噸といふ驚くべき統計によつても、その一斑を窺知することが出來よう。

そして聖戰一年有半に於ける連綿不斷の航空戦の結果、敵空軍を殲滅し、敵艦艇を撃滅し、制空と制海の實を擧げて以て皇軍作戰の全般に寄與せる功績は世界航空史上に時代を劃したものと云つてよからう。

(二) 南支作戰の新展開

【廣東攻略の意義】 抗日支那は事變勃發後五ヶ月にしてその首都南京を

奪はれ、その他國內の主要都市、主要海港をはじめとし、驚くべき廣汎な國土を失ひ、その政治、經濟、軍略の中心たる武漢三鎮の陥落も單なる日の問題と化してをつたにも拘らず、尙ほ且つ蔣政權が虚ろなる聲を張り上げて長期抗戰を呼號し續け得た所以のものは、支那が普通の國家とは異なる特異の存在であることを裏書するものであると同時に、また今次事變に於ける戰爭の對手が單なる支那國民政府に非ずして、その背後に英・佛・ソ職等援蔣國家群が儼然として控へてゐる事實を物語るものである。抗日支那はこれ等援蔣國家群の傀儡となつて、彼等の東亞赤化謀略並びにわが日本の大陸發展阻止のために、その人民の生命財産を犠牲に供し、その國土を戰場に提供し、これ等國家群の砲彈を皇軍に向つて撃ち込んでゐるのである。

これが今事變のあるがまゝの真相である。

自國に軍需工業能力の皆無な抗日支那が、世界の一等國日本を對手に抗戰を繼續せんがためには、武器彈藥その他軍需品の一切を援蔣第三國の供給に仰がなければならぬことは必然の事である。換言すれば、この上蔣政權をして對日抗戰を繼續せしむると終熄せしめるとの鍵は、一に援蔣第三國に握られてゐるのである。

かくて今事變の當初より、概ね次のやうな經路によつて支那の抗日の榮養が補給せられつゝあつたのである。

即ち、所謂「西北ルート」とは、ソ聯邦の受持つ甘肅省の蘭州方面から隴海線・京漢線を経由するものであり、「西南ルート」とはイギリスにより香港・廣東より廣九、粵漢兩鐵路その他自動車路を利用するもの、佛領印

度支那の海防から河内を経て、河龍鐵道・滇越線その他自動車路等により廣西・雲南の奥地を経由するもの、ポルトガル租借地澳門より香港・廣東を経由するもの、英領ビルマより雲南省に通ずるもの等多種多様であるが、抗日の參謀本部たる香港を経由する物資は、援蔣第三國から供給される全物資の八割にも及んでゐたのである。

帝國海軍は夙に、支那沿岸二千八百哩に亘り、所謂平時封鎖を實施し、一方、わが海軍航空部隊は不眠不休の活躍を續けて、前記抗日補給路の爆破遮斷に努めて來たのであるが、援蔣第三國は、わが方が支那船舶のみに對して行ふ交通遮斷、即ち平時封鎖の缺陷につけ込んで、毫も對日非友好的態度を改めようとしなないのみか、ますます抗日支那に武器彈藥軍需品等を供給し、以て支那に長期抗戰を使喚し、東洋の平和を攪亂しつゝある實

情である。

かくて皇軍によつて隴海・京漢の兩線が遮斷されて、ソ聯邦よりする「西北ルート」がその機能を喪失するに至るや、残された「西南ルート」の遮斷は、皇軍作戰上、もはや一刻の猶豫を許さざる焦眉の急務となつたのである。

こゝに待望のわが南支作戰は展開せられ、皇軍の精銳が突如バイアス灣頭に現はれてから、僅かに旬日にして南支抗日の一大據點廣東を攻略するに至つたのである。

これわが全國民の斷乎たる國家的決意の表明に外ならないのであるが、思へば皇軍をして遙けくも南支の涯にまでその武威を輝かさしめ、廣東城頭高々と日章旗を翻すに至らしめたものは、實に援蔣第三國の對日非友好

的態度が齎した必然の結果であつた。

【廣東攻略戦】 昭和十三年十月十二日拂曉、鹽澤幸一中將麾下のわが艦隊護衛の下に、精銳なるわが陸軍部隊を満載せる百數十隻の輸送船隊が、突如曉の靄を衝いて波靜かなるバイアス灣頭に現はれ、わが艦隊は上陸地點附近の海上と空中を完全に制壓しつゝ、陸軍部隊の奇襲上陸を掩護し、大規模なる歴史的渡洋進攻作戦に成功の第一歩を踏み出した。

翌十三日わが陸戦隊は亞鈴灣（バイアス灣の西部）北岸及び排牙山砲臺（亞鈴灣南岸）に上陸、敵を掃蕩してこれを占領した。

爾後十月十八日頃に至るまで南支護衛艦隊は引續き陸軍部隊の揚陸に協力すると共に、泊地の警戒に任じ、亞鈴灣その他の掃海作業を續行して多數の機雷を處分した。

かくて十月二十一日に至り、陸軍作戦は驚異的進展を示し、遂に同日午後三時三十分、その戦車隊は廣東に入城、同夜わが軍は完全に廣東市を占領したのである。

この間、わが南支海軍航空隊が終始その全力を舉げて陸軍作戦に協力し、或ひは敵軍隊、敵軍事施設を爆破し、或ひは廣九・粵漢兩鐵路・貨車群列車群等を徹底的に爆破粉碎するなど、廣東攻略戦に全面的協力をなし、速戦即決に絶大な貢獻をした事は、本作戦の偉大なる戦果と共に、永く史上に特筆大書さるべきである。

【珠江遡江作戦】 廣東の攻略は、わが歴史的南支作戦に巨大なる第一歩を踏み出したものであつて、その後も南支方面に於ける抗日策謀據點の覆滅、抗日主要補給路の遮断は、引續き陸海軍の緊密なる協同の下に續行さ

れ、いよ／＼戦果を擴大した。

海軍艦艇は廣東攻略の翌二十二日午前、更に陸軍輸送船團を護衛して珠江江口に進入した。

わが陸軍部隊は、海軍艦艇並びに海軍航空部隊の掩護の下に、大角頭島に敵前上陸を敢行し、島内の敵を掃蕩して虎門要塞の對岸に進出した。同時に海軍艦艇並びに海軍航空隊は、虎門・川鼻角^{せんびかし}方面の敵砲臺に猛烈なる攻撃を開始し、二十三日海軍陸戦隊は川鼻角砲臺下に、陸軍部隊は亞娘鞋^{あなごかた}島砲臺下に、それ／＼壯烈なる敵前上陸を決行し、午後五時敵が難攻不落を誇つた虎門要塞の全砲臺を占領して燦たる旭日の軍艦旗を翻した。

引續き海軍艦艇は珠江江口各地の機雷原掃海をはじめ、沿岸の敵が制壓しつゝ、陸軍舟艇を響導^{きやうどう}して珠江を遡り進撃を開始した。即ち、こゝに新たに

珠江遡江作戰が展開されたのである。

遡江部隊は機雷を掃海して水路を啓開しつゝ、二十四日夕刻珠江本流の海心沙^{かしのさ}に進出した。

そして十月二十六日には、江岸の敵を制壓し、機雷群を排除し、敵雷衛所を占領しつゝ、廣東の西方三水に達した。

また潭洲^{たんしゅう}水道を遡江した一部の艦艇も、二十五日早くも三水に到着、かくて二十九日遂に珠江四十五哩を突破して廣東前面に到達し、わが陸軍部隊の歡呼裡に感激の軍艦旗を江上に翻したのであつた。皇軍バイアス灣上陸以來僅かに十八日目である。

この間、わが遡江部隊の前路には無數の機雷があり、英國旗を掲揚せる敵魚雷艇の出沒するあり、また所謂珠江デルタ地帯には匪賊化せる敗殘兵

が出没し、遡江艦艇、陸戦隊、海軍航空隊、陸軍部隊それらの多端なる任務を遂行しつゝも一絲紊れざる統制の下に、見事なる海陸協同作戦が續行されたのである。

わが陸戦隊は海軍機掩護の下に、珠江遡江部隊に協力、蓮花砲臺を攻略し、續いて芝塘獨しやうたうに據る敵兵約一ケ中隊と激戦これを占領した。

爾後海軍部隊は殘敵の討伐に當るとともに、全作戦流域に互り、水路啓開作業に努力し、多數の機雷を處分しつゝあつたが、十一月二十四日、航空部隊、陸戦隊等との緊密なる協力の下に、二虎島（ビル、パツセーヂ）方面江岸の掃蕩を行つた。

これを要するに、本年後半期（聖戦一周年記念日七月七日以後）に於ける皇軍作戦は、武漢三鎮攻略に主力が注がれ、しかも長江がその樞軸として

主要なる進撃路となり、兵站線となつたため、帝國海軍がよく大陸奥地の戦闘にも協力し、世界戦史に比類なき海陸協同作戦の驚異的戦果を収め得たのである。

かくて帝國海軍の確保せる制海權は、やがて揚子江の大江を通じて大陸の奥地に延長され、こゝに江口より岳州に至る長江七百數十哩の制江權を獲得するに至り、大陸上空の制空權と相俟つて、皇軍作戦の全般に互り偉大なる貢獻をなし得たのである。

凡そ近代戦争に於ける武力戦の戦果は、海・陸・空協同作戦を完全に實施し得る側に於て最も大であるべきはいふまでもない。

事變勃發後早く既にその海軍と空軍を殆んど撃滅された抗日支那軍が、皇軍に敵し得ざるは蓋し自明の理であるといへよう。

漢口攻略を前に彼の南支に對するわが渡洋進攻作戰が鮮やかに實施せられ、疾風枯葉を捲くが如く僅かに旬日にして廣東を攻略するに至つたことも、既述の通り帝國海軍の制海、制空の賜ものであつたといひ得るのである。

今や事變は更に新たなる段階に入り、われ／＼は今、戰捷の一年有半を回顧しつゝ、新東亞建設の春を迎へようとしてゐる。

さりながら皇軍は蔣政權並びに抗日軍の潰滅を見るまでは、斷じてその鋒を收むるものではない。

かくてわが日本國民は、克く出師の目的を自覺し皇軍とともにふるひ立つて、東亞新秩序建設の斧を揮ひ、われわれ日本國民に課せられた一大使命の達成に向つて邁進しなければならぬ。

つらく／＼わが日本を繞る現下の複雑なる國際情勢を觀るに、事變の前途尙ほ樂觀を許さざるものあるは勿論、東亞新秩序の途上幾多の難關に逢着するであらうことを豫期しなければならぬ。

この時に當り、われ／＼は國軍の充實強化が建設工作と絶對不可分の關係にあり、殊に西太平洋の制海權確保が聖戰終局の目的たる東亞新秩序建設の基礎的條件たることを認識し、いやが上にも帝國海軍の自主的軍備を整備充實することを怠つてはならないのである。

三、漢口・廣東確保より海南島攻略迄

(イ) 南支爆撃行續く

十二月七日南支方面桂平攻撃部隊は、内地一帯を蔽ふ密雲を突破して桂

平・貴縣（廣西省）方面の偵察攻撃を敢行、桂平方面に於て敵の軍用舟艇五十隻を認めてこれを爆破飛散せしめ、又桂平市街の軍事施設に多大の損害を與へた。なほ北江方面に向つた一部隊は清遠下流で敵砲艦一隻及び小型軍用船一隻を爆撃して大破せしめた。

十二月八日南支方面粵漢線樂昌を攻撃し、機關車二輛貨車十五輛を爆破、線路數ヶ所を切斷したほか、英德及び清遠附近に於ては敵軍用舟艇數隻を粉碎した、

十二月九日南支方面全縣驛（廣西省東北部）を攻撃し驛附屬建物及び倉庫四貨車三十輛を爆破してその一部を炎上せしめ、線路數ヶ所を切斷した。數輛の貨車は赤黒の交錯した煙を擧げて猛烈に炎上した。

なほ西江方面の偵察攻撃に向つた一部隊は、水口墟（高要上流）に於て

小型軍用船艇約三十隻を襲つてその一部を大破粉碎した。

十二月十三日南支方面海軍航空部隊の一部は三水及び揚子江方面の偵察と攻撃を實施して倉庫群、敵舟艇その他敵陣地の爆撃を敢行して多大の損害を與へた。

十二月十四日南支方に於て粵漢線交通路の偵察攻撃に向つた航空隊の一部隊は沙口圩南方地區を攻撃、線路多數を切斷、停車中の貨車群の一部を粉碎した。

十二月十五日北支方面で航空隊の一部隊は十一日から十五日迄の間、芝罘・登州及び北雲台南西に蠢動する殘敵を攻撃し、敵據點部落を爆破しこれに多大の損害を與へた。

十二月十五日から十八日までの間、南支方面の左の箇所を攻撃、いづれも

多大の損害を與へた。

(一) 陽江・陽春方面で棧橋を爆破し、陸豊方面では兵舎その他の軍事施設を粉碎した。

(二) 西江方面の偵察部隊は水口墟東方で敵砲艦一隻を大破し、傾斜せしめた外、軍用船一隻を爆沈、その他の一部隊は高要附近敵陣地と軍用舟艇數隻を攻撃し砲艦一隻を爆沈した。

(三) 交通路の遮斷に向つた部隊は粵漢線沙口圩南方の鐵橋を爆撃して線路多數を切斷した。

(四) 北海襲撃部隊は同港内棧橋と北海の入口の冠頭角敵陣地を大破した。

十二月十九日南支方面で航空隊は粵漢線交通路偵察攻撃に際して英徳ド

流で軍用船艇數隻を爆破粉碎し、又沙口圩南方の鐵橋を大破した。

(ロ) 海軍陸戦隊の中支掃蕩戦

既に各占領地區に於ける海軍陸戦隊は北支治安維持、殘敵掃蕩に着々成功を収め、極寒連日の積雪を冒し、勇猛果敢に勇躍を續けた。

十二月下旬海軍陸戦隊は連雲港れんうんかう附近より進撃を開始し、宿城・孫家山西方の殘敵數百を猛撃潰走せしめた上、尙ほ治安隊百五十名を加へ、北雲臺山西方・孫家山・宿城方面の掃蕩を敢行した。

一月上旬に於て、寒氣加はるもひるまず、北雲臺山西方地區の殘敵を掃蕩潰滅し、更に機械化部隊や航空部隊の協力のもとに敵密集部隊陣地及び兵舎を猛爆し、尙ほ治安隊百八十名を伴ひ芝罘チイフイ南西地區の掃蕩を行つた。以上の掃蕩戦に於ては、敵に大損害を與へ、遺棄死體三百を超えたが、

我が方の死傷は僅かに三名に過ぎなかつた。

(ハ) 中支江上作戦

支那の大動脈たる長江の作戦は、江上部隊を以て残存機雷の清掃に専念しつゝ、敵の遊撃隊並びに對岸殘敵の掃蕩に戦果を擧げた。

十一月八日陸戦隊の一部は陸軍部隊と協力して新堤市内を掃蕩し敵艦永績を鹵獲した。

十二月下旬揚子江上に於て、我が砲艇隊は團風水道・張家洲・寶塔洲・彩港・東流水道附近に於て掃海作業に成果を収めた。

一月上旬に於ては昨年引續き江上艦艇や砲艇隊の活躍目覺しく、機雷の處分數知れず、清掃の地區を擧ぐれば揚子江上に於て、復興洲・陸溪洲・城陵磯・魯家灘・揚陵磯・仙峰岩・團風水道・白螺磯・簾洲・馬當夾・武

穴水道獅子山・碁盤洲・湖廣洲・魚磯上流・臨湘磯螺山間・大冶化鐵場・西山前面・黃州鄂城間等の廣範圍に互る。殊に江上部隊の一軍艦は磨磬石江岸にて敵の海軍砲二及び彈丸多數を鹵獲し、又砲艇隊の一部は机溜鎮に於て數十名の敵遊撃隊を撃退した。

一月中旬に於ける江上部隊の機雷清掃箇所は、鄂城上端全江面、大陽洲上流より大通水道・安慶より馬當閉墳線上流・張家洲・北港道・巴河川口・漁磯上流・湖口下流・黃連洲南側・赤壁・武穴・安慶下流審口江岸方面に於て處分決行し、殊に砲艇隊は塘口附近を偵察中遊撃隊を撃壊し、尙ほ一部隊は塘口よりクリークを遡り陳行鎮に至り遊撃隊の本據を衝き自動車その他多量を鹵獲した。

かくして揚子江上部隊は身も凍る水上の寒風を冒し間斷なき敵遊撃隊の

來襲に備へつゝ、延長實に七百五十哩に亙る全占領水域に對し、日夜水路の清掃に努力を續け、又漢口上流はもとより、同下流揚子江本流に於ても隨所に各種機雷を發見して、其の都度これを處分し、専ら水路啓開作業の完成を急いだ。

(二) 南支作戰

北支に端を發した事變も、時間の経過と共に漸次南方に轉廻し、今や南支集中戰の感あり、航空部隊の活躍は最も顯著にして、珠江部隊の躍進も亦目覺しく、殘存機雷、戎克ジャンクの清掃に大童になつてゐる。

十二月下旬に我が驅逐隊並びに珠江部隊は瀾洲南灣、伶仃島以北珠江間の戎克數百を處分し、三水警戒隊は馬口對岸高地の敵一ヶ小隊を擊退した。

一月上旬に於ては我が陸戰隊は瀾洲南灣に上陸して全島を掃蕩し、珠江部隊は陸軍部隊と協力し沙灣水道入口附近に於て敵守備隊を潰走せしめ同水道に進入し、陳村より北上、大石泊地に至るクリークの掃蕩を行ひ、戎克數百を處分した。

一月中旬に於ては我が珠江部隊掃海隊は、艦載機と協力して珠江本流、連接水路、エリオット島西側クリーク、ニムロットクリーク入口、海心沙タイシヤ島間クリーク北口、珠江小虎沙及び二虎の南北水道の機雷の清掃を敢行した。

かく南支方面珠江部隊は、珠江本流並びに其の連接水路一帶に亙り、沿岸殘敵を制壓しつゝ、機雷に沈船にと水路清掃作業を續行、着々と戰果を收めた。

(ホ) 海軍航空隊の行動

十二月下旬より一月中旬に跨がった海軍航空隊の行動を顧みるに、南支方面に其の主力を注ぎ中支、北支方面の爆撃これにつき或ひは陸戦隊に、或ひは江上掃海作業に呼應し、又陸軍作戦に協力して日夜攻撃の成果を擧げてゐる。

南支方面に於ては、十二月下旬桂林市街(二十四日)を空襲し、一部隊は青贍江方面(二十四日)を偵察攻撃し、野中、新郷大尉の指揮する部隊は柳州(二十七日)を攻撃し、再度桂林市街(二十九日)、陽江方面(三十日)、應海寨荷揚場・臺山南方・梧州東方(三十一日)を爆破し昭和十三年度の終尾を飾つた。明けて一月上旬に於ては沙灣水道南岸地區、青贍江方面偵察部隊は新會驛・銀洲湖・香山・青輦江を空襲、北海・南寧・化縣方面・

梅村・吳川間の爆撃を施行した。一月中旬に於ては桂林爆撃部隊は鬱林・香山(十一日、十二日)、貴縣(十五日、十七日、十九日)は空襲三次に及び、雷白港(十五日)、北海(十五日、二十日)、欽縣(十五日、十八日)の再度、陽江方面(十八日、十九日)は二次空襲等數知れず敢行した。

中支方面に於ては遡江作戦に呼應し、衝陽(一月八日)、吉安(十二日)、南昌、長沙交通路攻撃部隊は塘運驛(十一日)、株州、衝陽再度爆撃(十二日)、南陽(十五日)、株州驛、易家灣驛(十九日)、萍株・醴陵・杉板鋪驛(二十日)等を空襲した。

北支方面に於ては、陸上部隊殘敵掃蕩戦や陸軍部隊に協力の任務を果し、中正街・灌雲及び埒子口(十二月二十七日)の敵敗殘兵の據點を空爆し、一月上旬には登州の空襲を敢行した。

この空爆戦に於て敵の兵營・倉庫・工場・發電所・停車場・交通運輸機關・通信機關・軍用舟艇等數知れぬ軍事施設に投彈銃撃を加へ、敵に多大の損害を與へ、熾烈なる銃砲彈の反撃を受けつゝも全機悠々歸還することが出來た。

更に一月下旬以降全戦線に互つて間斷なき攻撃の威武を立てると共に、南支方面に主力を集中し、中支・北支の偵察爆撃にも戦果著るしいものがあつた。この活動たるや江上掃海作業に、或ひは殘敵掃蕩戦に、または上陸作戦に協力し堂々たる海鷲の威容を遺憾なく發揮するに至つた。

南支方面に於ては、一月二十一日、二十二日の兩日に互り汕頭・潮州・陽江・電白港・東興を攻撃し、軍用船艇・列車・自動車群を爆破し、徐聞市政府を攻撃多數の正規兵を潰走させた。二十三日、欽縣兵舎及び三龜島

附近の怪ジャンクを銃撃破壊させ、二十四日には貴縣に於てジャンク及び鐵道材料庫を爆撃し、二十五日、二十六日の兩日は、廣東省潭江方面の新會上流に於て軍需品滿載の運貨船二隻を爆破し、江西方面進撃部隊は祿歩附近に於て、慶雲型敵測量船を撃沈した。二十七日、二十八日の兩日は、前日に引續き新會驛方面及び西江方面に於て軍用船艇群や運貨船數隻を攻撃し、二十九日、三十日には險惡なる天候を冒し欽縣市域内外よりの防禦銃火を制壓しつゝ、機銃陣地を爆撃沈黙させた。なほ南寧市四方に架設中の鐵橋を爆破した外道路上の自動車三十臺を粉碎し、建築材料滿載の運貨船數隻を銃撃し、他の一部隊は揚子江岸にて倉庫群を爆撃六棟を大破させた。三十一日、南支部隊は灑洲島上空に怪飛行機を發見直ちにこれを砲撃撃退した。